

第5回 3R推進 全国大会

報告書

会期 平成22年11月2日(火)～7日(日)

3Rでいざ、
佐賀のエコ維新！



マスコットキャラクター
ピコピコ

3Rとは？

Reduce リデュース ごみをできるだけ出さない

Reuse リユース 使えるものは繰り返し使う

Recycle リサイクル 再び資源として利用する

主催

第5回 3R推進全国大会実行委員会

環境省、環境省九州地方環境事務所、佐賀県、佐賀市、3R活動推進フォーラム、佐賀県商工会議所連合会、社団法人佐賀県産業廃棄物協会、佐賀県消費者グループ協議会、特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構、佐賀県地球温暖化防止活動推進センター、佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議

1.大会概要

2.大会式典

3.さが環境展

4.関連イベント

5.資料

目次

大会報告	
第5回3R推進全国大会実行委員会 委員長 古谷 宏(佐賀県くらし環境本部長).....	2
後援	2
大会風景	3
マスコットキャラクター	3
式典プログラム	4
オープニングアトラクション	4
挨拶 環境大臣政務官/樋高 剛	5
佐賀県知事/古川 康	6
佐賀市長/秀島 敏行	7
佐賀県議会議長/留守 茂幸	8
表彰式	9
特別講演「3Rが拓く地域の未来～資源循環と自然共生を目指して～」	
武内 和彦(3R活動推進フォーラム会長)	11
記念講演「わたしのおすすめ 身近なエコ」	
乾 貴美子(タレント)	22
大会宣言	31
オープニングセレモニー	33
会場内の様子	34
目指せエコ賢人クイズラリー	34
さが環境展レイアウト	35
ステージイベント	37
体験コーナー	39
“3R川柳大賞”投票コーナー	39
環境省中央環境審議会循環型社会計画部会地域ブロックヒアリング	40
(プレイベント)3R推進全国大会プレイベント 3R記念講演会	41
佐賀市環境問題講演会	41
さが環境フェスティバルin森林公園	42
チラシ	43
式典プログラム	43
さが環境展リーフレット	44
ブログ・ホームページ・ツイッター	45
『3Rで、いざ、佐賀🌱エコ維新!』アンケート結果	46
第5回3R推進全国大会実行委員会設置要綱	47
データ集DVD	48

1 大会概要

●大会報告

第5回3R推進全国大会実行委員会

委員長 古谷 宏（佐賀県くらし環境本部長）



私たちが健全で恵み豊かな環境を将来の世代に引き継いでいくためには、3R活動の推進を通じ、社会経済の在り方やライフスタイルを見直し、循環型社会へと転換を図っていく必要があります。

本県では、「地球環境時代のトップランナー佐賀県」を基本理念とし、廃棄物の減量化・リサイクルと適正処理を推進し、環境への負荷の少ない循環型社会を形成していくことを目標に様々な施策に取り組んでいるところです。特に、1人1日当たりのごみの排出量は、全国でも最少の水準にあります。

このたび、3Rの推進に対する理解を一層深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組を推進することを目的として、第5回3R推進全国大会を平成22年11月2日～7日にかけて佐賀県で開催いたしました。

2日の「大会式典」を皮切りに、3日からは、佐賀インターナショナルバルーンフェスティバル会場内において、5日間にわたり「さが環境展」を開催いたしましたところ、県内外から約51,000人もの方々に御越しいただきました。

全国大会に合わせて、環境省による中央環境審議会循環型社会計画部会地域ブロックヒアリングについても本県で開催していただき、また、県内の市町をはじめ関係団体の方々には、3Rへの理解を深める講演会の開催など様々なプレイベントを実施していただき、大いに全国大会を盛り上げていただきました。

大会式典では、樋高剛環境大臣政務官から循環型社会形成推進功労者表彰及び3R促進ポスターコンクール最優秀賞受賞者の皆様に表彰状が授与されました。また、特別講演として、3R活動推進フォーラム会長の武内和彦氏（東京大学大学院教授）に、記念講演として、タレントの乾貴美子氏にご講演をいただきました。

さが環境展では、県内外の企業や団体の皆様から30のブースに出展をいただき、3R推進のためにそれぞれが工夫を凝らした展示や技術、取組などを紹介していただきました。また、エコ体験をすることができるイベントやステージショーなどの開催で、終始賑わいのある会場となりました。

本大会の開催は、県民の皆様をはじめ、会場にお越しいただいた多くの皆様に、広く3Rを知ってもらい、自分のライフスタイルを見直すきっかけを提供できたのではないかと考えております。

第5回3R推進全国大会が無事成功裡に終えることができましたのも、実行委員会各団体の皆様、さが環境展へご出展いただいた出展者の皆様、さらには、環境省をはじめ関係者の皆様のご支援、ご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

最後に、今後の3R活動のさらなる発展と、来年、京都市で開催される第6回3R推進全国大会の成功を心より祈念いたしまして、大会報告とさせていただきます。

●後援

佐賀県教育委員会、佐賀県市長会、佐賀県町村会、佐賀市教育委員会、社団法人佐賀県建設業協会、佐賀県環境整備事業協同組合、佐賀県商工会連合会、佐賀県中小企業団体中央会、佐賀県農業協同組合中央会、佐賀県有明海漁業協同組合、佐賀県玄海漁業協同組合連合会、財団法人佐賀県地域産業支援センター、社団法人佐賀県観光連盟、佐賀県地域婦人連絡協議会、佐賀県PTA連合会、佐賀新聞社、朝日新聞佐賀総局、毎日新聞社佐賀支局、読売新聞社西部本社、西日本新聞社、日刊工業新聞社、NHK佐賀放送局、STSサガテレビ、NBCラジオ佐賀、エフエム佐賀、佐賀県ケーブルテレビ協議会、時事通信社佐賀支局、共同通信社佐賀支局

●大会風景

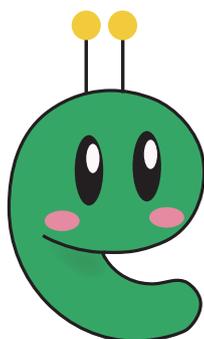


11月2日 大会式典(グランデはがくれ)



11月3日～7日 さが環境展(バルーンフェスタ会場)

●マスコットキャラクター



ピコピコ

キャラクターはエコの「e」
 県木の楠の「緑」、
 環境に敏感な「虫」
 環境に対するアンテナを張って
 行動していくイメージ。



さが環境展が開催された2010佐賀国際バルーンフェスタ会場(嘉瀬川河川敷)

2.大会式典

●式典プログラム

日程.....11月2日 13:30～16:30

会場.....グランデはがくれ フラワーホール(佐賀市天神二丁目1番36号)

来場者数...約400名

開会挨拶
	環境大臣政務官 樋高 剛 佐賀県知事 古川 康 佐賀市長 秀島 敏行
来賓挨拶
	佐賀県議会議長 留守 茂幸
表彰式
	循環型社会形成推進功労者等表彰 3R促進ポスターコンクール表彰
特別講演
	武内 和彦(3R活動推進フォーラム会長) 「3Rが拓く地域の未来～資源循環と自然共生を目指して～」
記念講演
	乾 貴美子(タレント) 「わたしのおすすめ 身近なエコ」
大会宣言
	佐賀市立神野 <small>こしの</small> 小学校児童
次回開催地挨拶
	京都市環境政策局長 坪内 俊明
閉会挨拶
	佐賀県くらし環境本部長 古谷 宏 (第5回3R推進全国大会実行委員会委員長)

●オープニングアトラクション

佐賀ユーモア協会にわか部会「佐賀にわか」

佐賀を代表する芸能として親しまれている「佐賀にわか」の公演。地球環境やエコ意識への啓発メッセージを、佐賀ならではの「にわか」にのせて演じていただきました。



●開会挨拶

樋高 剛（環境大臣政務官）



皆さん、こんにちは。第5回3R推進全国大会がここ佐賀県におきまして、県内のみならず、全国から大勢の皆様のご参加を得まして、盛大に開催されることをお慶び申し上げますとともに、本日、循環型社会形成推進功労者表彰を受けられる皆様方及び3R推進ポスターコンクールで選ばれた小・中学生の皆様に対し、心からお祝いを申し上げる次第であります。

本大会は、循環型社会の形成に向けて、「リデュース、リユース、リサイクル」の3Rの推進を目的として、開催をお引き受けいただいた自治体のご理解とご協力をいただきながら、平成18年以来、毎年開催して参りました。

本年の開催地であります、ここ佐賀県は、1人1日当たりの一般廃棄物の排出量、つまり、ごみを出す量は、全国でトップレベルの少なさである、「リデュースの先進県である」と伺っております。佐賀においては、幕末の名藩主・鍋島直正公が、藩政改革の一環として、質素・儉約を奨励され、その結果、ものを大切にすることが広がり、現在も県民の皆様が日常生活の中で、3Rの取り組みを当然のこととして取り組んでいらっしゃるわけであります。

また、佐賀県は、幕末・明治維新に至るまで多くの人材を輩出し、進取の精神に富んだ土地であると認識しております。まさに、エコ維新をここ佐賀から、是非とも、全国に幅広く広めたいと思っております。

3Rの取組は、持続可能な社会をつくる原動力となります。環境省といたしましては、皆さんの身近にもあります「マイバッグ」など、ライフスタイルの変革や、地域それぞれの特色を活かした、地域活性化に役立つ循環型の地域づ

くり、あるいはレアメタルの回収、リサイクルに、今後力を入れて参りたいと思っております。

この循環型社会をつくるという理念は、実は、国際的に見ても日本が誇るべき理念として、今、全世界に発信をしているところであります。アジア3R推進フォーラムが、つい先月マレーシアで行われましたけれども、私が参画をいたしまして、3Rのアジア全体の認識を高めるといふ活動も行参りました。日本には誇るべき優れた3R廃棄物処理技術システムがあります。これらを海外に展開をしていくことで、日本のすばらしさをしっかりとアピールをして参りたいと思っております。

こうした循環型社会づくりの取り組みを広げていくためには、あらゆる関係者の皆様方が手を携えて、今後、さらに連携を取りながら取り組んでいただくこと、そして多くの皆様方に3Rという言葉の意味を意識していただくことが何よりも大切でありますし、また、今日の本大会は、それに向けての絶好の機会であると考えおります。

本大会ご参加の皆様方には、国内外の3Rの推進に向けて、一層のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、開催に当たりまして、ご尽力をいただきました佐賀県、そして佐賀市の皆様方と、3R活動推進フォーラムの関係者の皆様方に心より御礼を申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。ありがとうございます。

●開会挨拶

古川 康（佐賀県知事）



ご紹介賜いました佐賀県知事の古川康でございます。第5回3R推進全国大会が、今日ここで開かれることを本当に嬉しく思っております。

佐賀県にとってみると、今日のはめでたい日でございます。今朝、私の家の前を出て、県庁に向かう時に空を見上げましたら、バルーンが一機、私の家の上空を舞っておりました。いよいよ、佐賀の晩秋の空を彩る「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」が、明日からスタートします。そして、唐津では、今夜から、「唐津くんち」が始まります。唐津は、1年がこの3日間のためにあると言ってもいいような盛り上がりを示します。

佐賀県全体が「わっ」と盛り上がり、そして、非常に良い気候の中で、あらためて自分たちの暮らしを考えて行こうというこの大会を開かれることを嬉しく思っております。

先ほど、政務官から、佐賀県という地域が持っている3Rに向いている土地柄についてお話がありました。私も暮らして、誠にそうだと思っています。ただ、県民の意識だけではなく、意図して引っ張っていくという、行政や政治の力もこれからは求められていくだろうと思っています。

今日、私は電気自動車で参りましたが、この電気自動車は、環境省の基金で買ったものでございまして、時々、このように仕事に使っています。電気自動車は、燃料代が3分の1から9分の1くらいで済むようになります。今日乗って来た電気自動車は、会場内に展示されることになっておりまして、帰りはプラグインハイブリッドの車で帰ることになっております。ちなみに、プラグインハイブリッドの車は、最初は電気で走って、電気が切れると、その後、普通のプリウスとして走ります。実際に1で30km走りまして、このように石油の消費量というものが大きく変わっているということを感じます。

実は、国の基金で買ったこの電気自動車は、啓発の時にしか使えないこととなっています。それ以外の時に、私が公務で行く時に使っているのか、と担当課に確認したら、イベントのために買ったからイベント以外に使わない方がいいということでした。でも、車がそこにあるのに使わない方が税金の有効な使い道になるというのが、おかしいと私は思っています。滋

使えるものはできるだけいかすということが、私は無駄のない、ムラのない社会を創っていくということにつながるのではないだろうかと思っています。

佐賀は、こういったものに向けた土地柄だとは思いますが、私が知事になった平成15年頃は、紙の使い方にしても、まだまだ裏紙の白いところがいっぱいありました。「そういうものをなくそうよ。」と言った時に、「普通、自分たちが使っているのはそういうものですが、知事に持って行くときは、裏紙は利用していません。」と職員から言われたので、「そうするな。」と言いました。知事は別、市長は別、議長は別、とやり始めるとみんなが別になってしまいます。議長のところだからこそ、知事のところだからこそ、政務官のところだからこそ、「紙は裏紙を使います。」とすることが、まさに、率先垂範ということだろうと思います。

今日は、Usteam(ユーストリーム)もありますので、全国、ある意味全世界に向けて発信しているということになります。ぜひ、こうした動きや我が国が持つ、また、佐賀県が持つ3Rの精神が、多くの人に共有されることを期待して、ご挨拶にさせていただきたいと思いません。今日は本当にありがとうございました。

滋この挨拶を聞いておられた樋高政務官が直ちに環境省担当部署に指示をされ運用が大きく改善されました。

●開会挨拶

秀島 敏行（佐賀市長）

皆さん、こんにちは。本日は、葉隠の里・佐賀、最近では徐福のゆかりの地・佐賀としても売り出しておりますが、ようこそ佐賀においていただきました。第5回3R推進全国大会をこの佐賀の地で開催させていただきました関係者の皆さんに感謝を申し上げたいと思います。24万の佐賀市民を代表いたしまして、歓迎のご挨拶をさせていただきます。

さて、佐賀市では、本年2月、「環境都市宣言」を行いました。これは、佐賀の豊かな自然を守り、未来の子どもに引き継いでいくため、今、私たちが環境について学び、考え、そしてまた話し合い、そして行動に移していこうというものでございます。この宣言を機に、市民、事業所、行政が一丸となって3Rの、なお一層の推進に向けて取り組んでいるところであります。誰かがするだろうということではなくて、私たち一人ひとりが立ち上がり、そして行動に移すという時期であると思います。このような中、ここ佐賀市で第5回3R推進全国大会を開催できますことを大変うれしく思っているところでございます。

さて、知事のご挨拶の中にありましたが、ちょうどこの季節、佐賀では稲刈りも終わり、見渡す限り平野が広がっております。そういう中で、この地の利を活かした佐賀市嘉瀬川河川敷では、今年31回目となります「2010佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」を開催いたします。国の内外から、100機を超えるバルーンが集まるアジア最大のバルーン大会でございます。佐賀の大自然の中で、ビル5階建ての高さがあるようなバルーンが、一斉に飛び立つ様子は、まさに壮観でございます。ぜひ、間近でこの迫力を体験していただければというふう



に思っています。この同じパルーン会場で「さが環境展」も開催されることになっております。

また、本日、午後6時から、バルーンフェスタの前夜祭が行われます。佐賀ライトファンタジーのイルミネーションの中、バルーンの選手を交え、約1,000人の方がパフォーマンスを行いながら、市内をパレードして楽しんでいただくことになっております。こちらも見の価値があるかと思っております。

さらに、会場にはおいしいものがたくさんございます。有明海の海の幸は珍しい食べもので有名でございますが、珍しい食べものの中に、佐賀生まれでありながら、なぜかシシリアンライスという名前が付いた佐賀のご当地グルメも入っています。是非、こちらの方も味わっていただければと思うところでございます。

多くの皆様にご来場いただいて、第5回3R推進全国大会が盛会裡に終了することを祈念し、私の歓迎のご挨拶とさせていただきます。本日は大変おめでとうございます。



●来賓挨拶

留守 茂幸（佐賀県議会議長）



皆さん、こんにちは。ご紹介を賜りました佐賀県議会議長の留守茂幸でございます。多くのご来賓を目の前にして大変恐縮ではございますけれども、来賓を代表いたしまして一言お祝いの言葉を申し上げたいと思います。

本日、ここに第5回3R推進全国大会が開催されるに当たり、佐賀県議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、全国各地から参加していただいた多くの関係者の皆様をお迎えし、盛大に、本大会が葉隠の里、ここ佐賀県で開催されますことは、誠に光栄でありまして、地元県議会を代表いたしまして、心から歓迎を申し上げる次第でございます。

本大会にご参加の皆様方におかれましては、かねてから3R活動の推進に、格別のご努力を賜っておりまして、皆様方の日頃のご苦労に対しまして、敬意と感謝の意を表する次第でございます。また、本日、格別のご功績により、栄えある表彰を受けられます皆様、誠にありがとうございます。皆様、そのご栄誉を心からお祝い申し上げます。

そして、皆様方のご承知のとおり、これまでの国民生活が、大量生産、大量消費、大量廃棄という社会活動の下で、経済の発展や産業活動の活性化等に伴い、物質的な豊かさなど大きな恩恵を受けて参りました。しかしながら、その一方で、地球上の限りある資源を浪費するとともに、大量の廃棄物の発生など、地球規模でのさまざまな環境問題を引き起こしているところでもございます。今後、持続可能な社会を実現するためには、社会経済システムやライフスタイルを早急に見直し、循環型社会を形成することが急務となっているところでございます。

このような中、ごみ減量、再資源化など、3R

推進に対する理解と関心を深めることを目的として本大会が開催されますことは、誠に意義深く、本大会の実りある成果を期待する次第でございます。本日から6日間に亘り「3Rで、いざ、佐賀エコ維新！」を合言葉に、多彩な催しが実施されると伺っておりますので、どうか、皆様方におかれましては、本大会を通じてごみゼロ社会の実現や、循環型社会の形成に向けてそれぞれのお立場で実践していただくことを期待しております。

また、この度は、せっかく佐賀県においでいただきましたので、佐賀の観光資源である吉野ヶ里歴史公園、あるいは嬉野温泉、祐徳稲荷神社などへ、是非、足を運んでいただき、宝の海である有明海の産物である海苔やムツゴロウなども時間の許す限り賞味いただければ幸いに存じます。

終わりに、本大会の開催にご尽力賜りました環境省並びに3R活動推進フォーラムをはじめ、関係者の皆様方に深く敬意を表しますとともに、本日お集まりの皆様、今後、ますますのご健勝、ご活躍を心から祈念を申し上げましてお祝いの言葉といたします。本日は誠にありがとうございます。



表彰式

循環型社会形成推進功労者等表彰

循環型社会形成推進功労者等表彰は、先駆的または独創的な取り組みにより、循環型社会の形成について顕著な成果をあげている企業、団体、個人の方々を環境大臣から表彰するものです。本年は、20企業、9団体、7個人が受賞されました。



3R活動優良企業

道栄紙業株式会社(北海道)

製紙メーカーから排出される残渣物の再資源化により多目的環境資材を製品化。

サッポロビール株式会社北海道工場(北海道)

工場敷地内から排出される副産物・廃棄物の再資源化に取り組み、再資源化100%を達成・継続している。

丸利伊丹車輛株式会社(北海道)

自動車解体作業において独自の前処理工程を構築し、作業時に排出される廃棄物のリサイクル率の向上に取り組んでいる。

富士通セミコンダクター株式会社岩手工場(岩手県)

事業場から排出する廃棄物量の削減を中長期的目標を立て計画的に進め、大幅な削減を実現。

東日本リサイクルシステムズ株式会社(宮城県)

廃棄物の循環利用や適正処分の向上のための技術やシステムを実用化して3Rの推進に貢献。

株式会社ガイアート・K白岡合材工場(埼玉県)

埼玉県内で最も歴史のある建設廃棄物再生工場として3Rを推進するとともに、再生重油を使用しサーマルリサイクルにも寄与。

株式会社間組(東京都)

解体コンクリートを現場内再利用して構造物の支持地盤を造成したり、空洞を埋めもどす技術を確認・展開。

日本国土開発株式会社(東京都)

ホタテ貝殻のコンクリート用細骨材への活用(シェルコンクリートの実用化)。

泰和株式会社(東京都)

(社)環境生活文化機構運営のユニフォームリサイクルシステムにおいて、製造・販売・保守管理・回収・再生品原料提供などに取り組んでいる。

日本コカ・コーラ株式会社(東京都)

「い・る・は・す」(天然水)520mlに国内最軽量で植物由来素材を一部使用したPETボトルを導入、消費者のエコ活動への参加を啓発。

株式会社キタニ(長野県)

あらゆる産業廃棄物のリサイクル化のため施設設備の充実と廃棄物の適正分別による高品質の原材料化に積極的に取り組んでいる。

株式会社竹原重建(長野県)

県が推進する「産業廃棄物減量化・適正処理実践協定」、「信州リサイクル製品認定制度」に率先して取り組み、廃棄物の再資源化に尽力。

揖斐川工業株式会社(岐阜県)

廃ガラス・熔融スラグ・フライアッシュ・鉄鋼スラグのリサイクル事業を通し循環型社会形成に貢献。

丸富製紙株式会社(静岡県)

家庭紙製造を通じた紙バックの再利用及びゼロエミッション技術の確立により循環的利用、廃棄物削減に寄与。

ローム株式会社(京都府)

廃液の分別回収による有機物化や、薬品容器のリターンブル化等に努め、再資源化率99%以上を6年間達成している。

有限会社赤碓清掃(鳥取県)

バイオマス燃料の利用推進や間伐材等を活用した木質ペレットの製造販売を行い、3Rを推進するとともに地球温暖化防止活動に寄与。

株式会社大塚製薬工場鳴門工場(徳島県)

廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッションを達成。徳島県認定3Rモデル事業所として循環型社会形成推進に貢献。

大石産業株式会社(福岡県)

古紙を原料とした「バルブモールド」製品により、化成製品による廃棄物の発生を抑制。

株式会社島田商会(佐賀県)

使用済自動車リサイクル工場において部品のリユースに努め、処理施設から発生する金属くずやプラスチックくずも素材別に分別するなど資源の有効利用に先進的に取り組んでいる。

前田建設工業株式会社九州支店熊本合同庁舎作業所(熊本県)

JR熊本駅周辺整備事業において、工事計画段階より環境に配慮した工事を進め、94.1%の再資源化率を達成するなど、建設工事現場における環境負荷低減活動に取り組んでいる。

3R活動推進功勞団体

茅ヶ崎市商店会連合会(神奈川県)

リターンルびん、生ごみの堆肥化、マイバックづくりを進め、商店街を中心とした循環型社会の形成を推進。

立山中央生活学校(富山県)

ボランティアによるリサイクル活動をはじめ、その他の3R活動や美化活動に取り組んでいる。

七尾市緑ヶ丘町内会みどり会(石川県)

長年に亘り、廃棄物の細分別・リサイクル運動を推進、また、リサイクルに関する研鑽を積むなど循環型社会形成への模範的な地域づくりに貢献。

特定非営利活動法人環境浄化を進める会岐阜(岐阜県)

長年に亘り、家庭から出る「生ごみ」の減量・資源化の市民啓発を行い循環型社会の形成に寄与。

東海市リサイクル運動市民の会(愛知県)

30年間に亘り、家庭における不用品の活用を図る市民バザーや資源回収に先進的・継続的に取り組んでいる。

滋賀グリーン購入ネットワーク(滋賀県)

企業、行政、消費者団体等による「グリーン購入」の実践活動、普及啓発活動などに取り組み、「循環型社会」の構築に貢献。

ごみを減らそうプロジェクト(滋賀県)

家庭ごみの減量を進めるため、市民対象の出前講座の実施、また行政と連携したレジ袋削減に向けた仕組みづくりに取り組んでいる。

海部郡レジ袋有料化推進実行委員会(徳島県)

2007年10月に「地域主導型」により郡内154店舗で県内初のレジ袋有料化をスタートさせ、マイバック持参率90%を維持している。

環境学習サポーターの会(福岡県)

リサイクル体験などを通して、地域における環境活動への機運の醸成を図り、3R活動の普及を推進。

3R活動推進功勞個人

三浦 求(岩手県)

行政等関係者と協議し、廃棄物のセメント原料としての受入処理体制の整備や地域の再利用ごみの収集を指導・実行してきた。

吉成 一(栃木県)

廃棄物の発生抑制・減量・リサイクルなど循環型社会構築に向けた啓発活動に貢献。

根岸 文夫(埼玉県)

多年に亘り、環境衛生推進委員として活躍。特に資源ごみ分別収集を地域に根付かせ、本庄市における3R推進に貢献。

松田 良明(岐阜県)

建設廃棄物の3R推進並びに循環型社会形成に向けた啓発活動及び組合員指導に尽力。

藤野 賢吉(愛知県)

名古屋市のレジ袋有料化の推進を提案し、2年度で全16区に広げる等、ごみの発生抑制に貢献。

衣川 益弘(鳥取県)

鳥取県版環境管理システムに貢献及びグリーン購入とつとりネットを設立し、グリーン購入の推進に貢献するなど循環型社会形成の推進に貢献。

大坪 隆治(福岡県)

(社)福岡県産業廃棄物協会役員として排出事業者や産業廃棄物処理業者等に対し、3Rの啓発普及活動を永きにわたり推進。

3R促進ポスターコンクール表彰

3R促進ポスターコンクールは、全国の小学生と中学生を対象に、過剰包装の抑制、リユースカップの活用、リサイクルへの協力など、3Rすなわち排出抑制のリデュース、再使用のリユース、再生利用のリサイクルを通じて循環型社会の構築を促進することをテーマとしたポスターを募集し、優れた作品を選定し表彰するものです。

小学生低学年の部



小学生高学年の部



中学生の部



詳細については、3R推進フォーラムのホームページをご覧ください。

<http://3r-forum.jp/poster2009.html>

●特別講演 「3Rが拓く地域の未来 ～資源循環と自然共生を目指して～」

3R活動推進フォーラム会長

武内 和彦（国際連合大学副学長、東京大学大学院教授）



皆さんこんにちは。只今ご紹介いただきました武内でございます。今日は50分ほど、この3Rのことについてお話をさせていただきます。

この話の前に、ちょうど先週土曜の未明ですけれども、愛知県名古屋市で「生物多様性条約」の第10回締約国会議が2週間に亘って開催されておりまして、そして最後にやっと「名古屋議定書」がまとめられました。先ほど表彰にお名前のあった松本環境大臣、環境大臣に就任されてから大変短い期間で、この問題について大変良く勉強されまして、また交渉の中ではいろんな対立があったわけですが、それをうまく調整されて、この議定書をまとめられたということで、私は大変うれしく思っております。

もう1つの話題は、議定書と並んで生物多様性について、長期的な目標を作るということ。こちらの方は、「愛知ターゲット」という名称になりました。名古屋だけだと愛知県がせっかく頑張ったのに、愛知県の名前が忘れ去られるのは残念だということで、みんな配慮して、1つは「名古屋」の名前が付いて、もう1つは「愛知」と名前が付いた、そういう世界に誇り得る取り決めができたというわけです。

議定書がどういう内容かと言いますと、遺伝資源をはじめとして、さまざまな生き物の恵みを我々が使って、そして生活を営んでいるわけです。農産物、それから医薬品あるいは化粧品とか、こういうものは、すべて元々は野生にある遺伝子を改良して作っていくわけです。そういうものがどこに多くあるかという途上国、特に熱帯地域に多いんです。それで、そういう

地域の資源を使って、先進国の企業がそれを製品に開発して売り出すわけです。ところが、その利益を途上国の人に還元してないじゃないか。こういうことが話題になりまして、先進国は、できるだけ途上国に対する利益の還元を抑制しますし、途上国の方は過去にさかのぼって利益を返せと主張する。そういう対立があったわけですが、これは日本が間に入って名古屋議定書という形で取りまとめる。

それから愛知ターゲットというのは、世界の保護地域をどのくらいの面積にするかというので、例えば、海洋の保護地域をどのくらい広げるかというふうな話があったんですが、先進国はどんどんと保護地域を広げて、「30%くらいは保護地域にしろ」と言いますし、途上国は、これから資源を売って生活をしないわけじゃないから、「そんなとんでもない。5%があればそれで充分だ」と。そういう対立の中で、17%というふうにまとめるとか、こういう努力があったわけです。

今日の話は、3Rということですが、その生物多様性でも、今回、世界をリードしたわけですが、実は、皆さんもっと誇りに思ってもらっていいと思うのですが、世界的に見ても、日本は3Rが非常に進んだ国であると言えると思うんですね。よくドイツは進んでいると言って、自治体の方かなんかでも、一生懸命にドイツに行ってリサイクルの施設を見学して、「ドイツみたいにしなきゃいけない」と吹聴するというのは、「“では”の神」と言うんですね。「ドイツ“では”」とか「アメリカ“では”」とか、実は、そういうのが私はちょっと癪で、例

えば、リサイクル率みたいなものを調べてみたことがあるんですね。すると、実際には、むしろ、日本の方が進んでいる。ただ、日本が、少し問題があるのかなと思うのは、市民社会の取組が、必ずしも組織化されていない面があるということです。こういう点はきちんと反省して市民社会がこの3Rに取り組んでいくようにしなきゃいけないんじゃないかなというふうに思ったりしているわけです。

そういう意味で、あんまり私たちの活動を卑下して考えることはないんじゃないかなと、私が皆さんに申し上げたいことです。日本はやっぱり3R先進国だと言っていいんじゃないかと思えます。

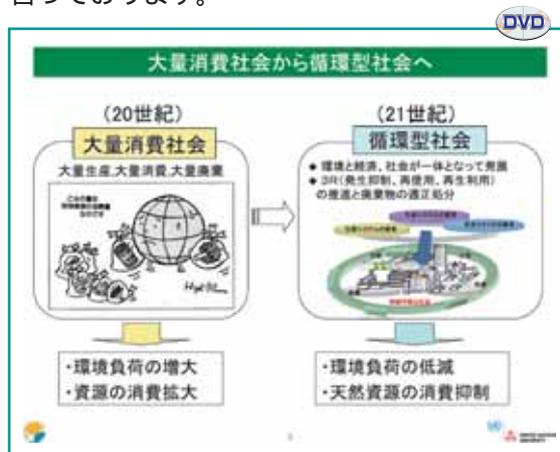
さて、私は中央環境審議会で、今、循環型社会計画の部会長をやらしていただいておりますけれども、2007年ですけれども、安倍内閣のときに21世紀環境立国戦略を作ろうじゃないかという話がありまして、それで、私もその審議会の特別部会のメンバーとしてその議論に参画したことがあります。そのときに申し上げたのは、持続可能な社会を目指さなくてはいけないのですが、そのときにいろんなことを考えなくてはいけないというのは、もちろんあるわけですが、主として3つのことを考えていくことが必要なんじゃないか。こういうことを提案申し上げました。これが最終的に閣議決定の文章の中にも入ったわけなんです。



1つは、低炭素社会。CO₂の排出の問題。エネルギーの問題。先ほど車のエネルギー効率が話題になっておりましたが、そういう問題が大きな問題として1つあります。それから、最

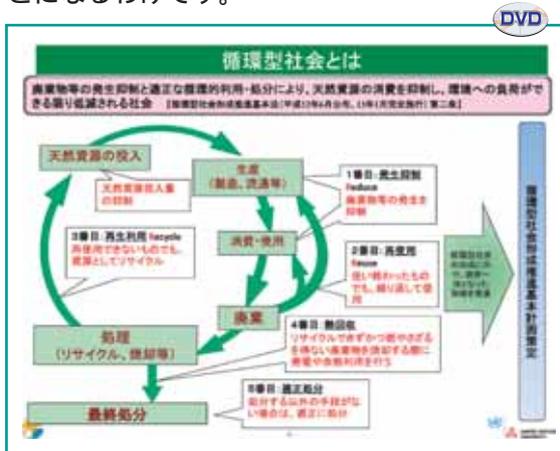
初に私が申し上げた生物多様性、生態系、こういうものを考えるということも大事で、自然共生社会とっております。そういうものと並んで、ものの循環的な利用を促進していこうというのが循環型社会ということで、これは持続可能な社会の3本柱の1つとしてこの問題を考えるということが重要なのではないかと。

そうすると、例えば、低炭素社会と循環型社会は、エネルギーの問題と資源、ものの問題として捉えることができる。この両方をどうやってうまくつなげていくと、いい社会になるのかということを考えていくことができる。それから、循環型社会と先ほど表彰にもありましたけれども、日本の適正なバイオマスを利用するということは、日本の自然を大事に育てていくということに貢献するわけですから、この2つ間の関連性をより強化するということがつながる。そんなふうに考えていけるんじゃないかということで、現在、循環型社会形成推進基本計画においても、3社会の統合の中で、循環型社会を考えていきたいと思います。こういうふうにしております。



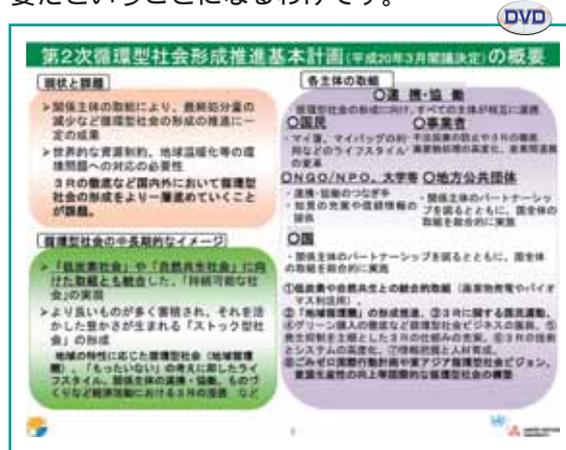
循環型社会の基本は、これまでは天然資源を大量に使って、大量に製品にして、そして使い終わったらそれを捨ててしまうと。その結果、資源が枯渇する。他方で、廃棄物がいろんなところに溜まって、そして人々の生活に対しては、ただごみが溜まるというだけでなく、場合によっては環境汚染するという形で被害を与える。こういうふうな問題だったんですね。いわゆる20世紀型の大量消費の社会。成長する社会はそういうことで、実は、私達の地球環

境という観点からいうと、非持続的な環境を生み出してきた。今、私たちは21世紀に入って、そういう社会を見直して、もう一度、自然と人間がうまく付き合えるような化石燃料に多くを依存しないでもエネルギーをまかなえるような、そういう社会をつくっていかねばいけない。そういうことと並んで、ものを大事に使って、原材料である天然資源の利用をできるだけ抑制して、逆に、廃棄物になるものもできるだけこれを減らして、そして資源を回し使うような社会をつくっていかう。こういうことが循環型社会形成というものの狙いということになるわけです。



3Rが何かということは、ここにおられる方はみなご存知だと思いますけれども「リデュース」、「リユース」、「リサイクル」という3つの言葉から成り立っております。「リデュース・リユース・リサイクル」という並びで、実は、優先順位というのが付けられています。まず、何よりもその発生を抑制することが大事だということです。いくらリサイクルしても大量にリサイクルすると、それだけで、また環境に対して負荷を与えてしまうということです。そもそも、資源の利用をできるだけ抑制するということを第一義にして、それで使えるものは何度でも使い回しをする。例えばリターナブルな容器みたいなものとか、そういうようなことを知って、そして、3番目としてリサイクルをするということで、もう1回資源として使うという順番にしていく。そういうことで循環の輪を作っていくというのが1つの原則であります。

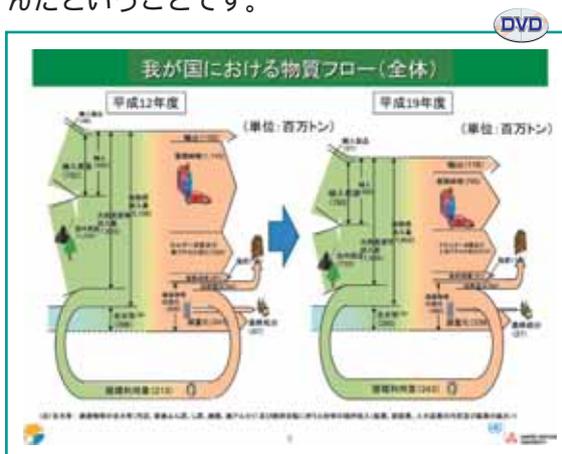
そうは言っても、全く廃棄物がなくなるわけではありませぬので、廃棄物については、適正に処理するわけですが、その前に、もう1回資源として使えないかということで、最終的には、廃棄する前にエネルギーをそこから回収するということができるのではないかと。例えば、プラスチックでも、いわゆるリサイクルをして使い回すものもありますけど、汚いものはリサイクルするとかえって、リサイクルのためのエネルギーを使ってしまうということがあるんですね。そういう場合には、むしろ焼却処分をするというふうなことのほうが、よりトータルな環境に対する負荷は小さくなる場合があるわけです。その際も、それをただごみに捨てるのではなくて、例えば、ごみ焼却場の燃料として使うということによって、そこでエネルギーを回収するというので、とにかく最大限活用をしていくという考え方を取っていくということが必要だということになるわけです。



循環型社会形成推進基本計画、長いので「循環基本計画」と言っておりますが、大きな枠組みでは、我が国には環境基本計画というものがありまして、その下で、いくつかの基本計画が作られています。その1つが循環基本計画です。第1期がありまして、今は第2期目ということになっています。この中で、ここに書いていますように、低炭素社会や自然共生社会との融合が大事だということも話をしておりますし、それから、これまでよりもさらに循環型社会を推進していく。これはどういうことかは、後ほど申し上げたいと思います。要するに先ほど申し上げましたように、天然資源の利用を抑制する

ということと、資源を大事に使っていくということと、廃棄物を減らしていくという、このところが1つの大きな要点であるわけです。

それとやっぱり、今日もたくさんの企業や市民の方々、学校の生徒さんが受賞されましたけども、いろんな異なる主体がこの問題について取り組んでいくというのが非常に重要なんです。この点はこれからまだまだ私たちの取組を、より強化していく必要があります。いろんな人が関わってこそ、この循環型社会ができるんだということです。



循環型社会をどうやって捉えればいいのかということで、環境省の中でいろいろと議論がされているんですが、難しい言い方ですけども物質のフロー、物質の流れという考え方があります。物質のフローという考え方は、どういう考え方かという、まず、海外からどのくらいの資源がやってきているか、それから、国内でどれくらい資源を使ってそれを原材料にしているのか。例えば、鉄鉱石のようなものは海外から輸入していますね。それに対して、土砂、埋立の土砂は、日本のどこかの山を切り崩して土砂を海に運んで埋立にする。これは国内産の資源ということになります。そういうものを加工して一部を輸出したり、あるいは、日本の国土の中にいわゆる人工物として蓄積をしていったり、あるいは、それをエネルギーに使ったり、食糧に使ったり、そういうふうにしていく流れがあるわけです。天然資源の抑制ということから言うと、いかに入り口を細くしていくかというのは大事でありまして、これで見ますと、平成12年と平成19年で入り口の太さを見ていた

だきますと2,138から1,802、これ単位は百万トンですけども、というふうに全体をしていうと減っているということがお分かりいただけると思うんですね。

ただ、輸入だけを見てみると、実は海外からの輸入はちょっと増えているんですね。ここいら辺りを循環型社会を考えると、ちょっと問題なんですね。今度は、逆に国内の資源を見ますとだいぶ減ってるんですね。これは、中部国際空港なんかをつくるときに、ものすごい大量の土砂を使ったんですね。そういうのが一段落しましたので、かなりこれが減っているということになっているわけです。

そこで、どの程度最終処分になっているかという、57から27ということで、ものすごく大きな成果なんです。日本の社会の中では、今まではもう最終処分をする場所がないと大きな問題になっていたのです。最終処分の場所を探すよりも、処分する量を減らした方が、はるかに効率的だということです。企業も皆、そのことの重要性に気が付き始めて、出来るだけ廃棄物を資源に戻すという考え方でやっているんで減っているんです。

この下にループが出来ていますね。このループが何かというと、本来廃棄物になっていたものを、もう1回資源に戻してるんだと、こういうループです。これを見ますと、213から243。こっちはこれが増えたほうがいいんです。この輪っかが太くなればなるほど、日本は循環型社会に近づいていく。これを見ると、まだまだ循環型社会というふうに日本の社会を現すには、時期尚早だなということがおわかりいただけると思います。

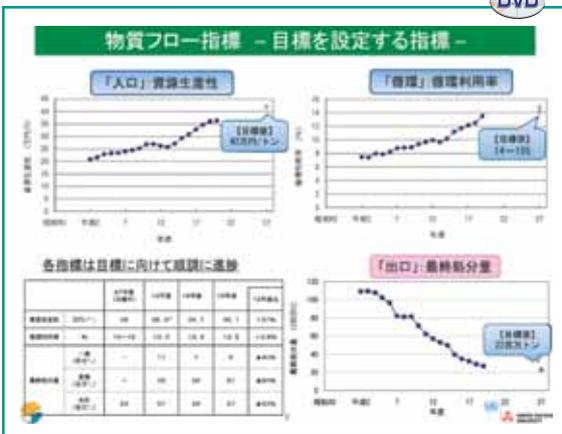
あまり詳しいことを説明する時間はありませんが、いろんな指標を私たちは使って今、日本の循環型社会の進行状況をモニターしているわけです。そういう中には、バイオマスをどの程度使っているか。それから、ここに隠れたフローという言葉が書いてありますが、これは何かというと、天然資源で、例えば、鉄鉱石という話をしました。鉄鉱石を日本に輸入するのですが、鉄鉱石だけを純粹に取り出して日本に運

循環型社会形成推進基本計画のポイント
一 進捗状況を把握するための指標の設定
(物質フローに着目した指標:物質フロー指標)

分類	指標	目標値	目標年度
(1)目標を設定する指標	①資源生産性(※1)	約42万円/トン	平成27年度
	②循環利用率(※2)	約14~15%	
	③最終処分量	約23百万トン	
(2)目標を設定する補助指標	※1 非土石高資源投入量を除いた資源生産性	約77万円/トン	平成27年度
	※2 廃棄物部門由来のGHG排出量(民間企業への取組との連携)	約43百万トン以下	平成22年度(※)
(3)指標をモニターする指標	※1 資源生産性= GDP / (天然資源等投入量+産業や人々の生活がもたらした消費財の生産に要する資源)		
	※2 エイオマス系資源投入率		
	※3 循環利用率= 資源利用率 / (資源利用率+天然資源等投入量) × 100		
	※4 産業分野別の資源生産性		

※(※)は平成20年度～24年度の5年間の平均

ぶということではできないわけです。鉄鉱石を掘るためにものすごく大量の土砂を掘って、そして、その中から鉄鉱石を探すということをしなきゃいけないわけですから。その分は数字としては日本の輸入量には入っていません。しかし、相手の国の環境をそれだけ破壊しているということになるわけです。ですから、そういうことも含めて評価しなくてはいけないということがこの指標の中に入っている。鉄鉱石を1トン確保するためには、どのくらいの山を壊さなきゃいけないか、という計算をしていくわけです。



こういうことで見てみますと、入口の資源生産性、これは1トン当たりいくらの価値を持ったものを作っているのかということで、これはGDPを資源物で割り算をした数字ですが、この目標値が、トン当たり42万円ということです。ご覧いただいてわかるように、かなり順調に数字が推移して、このままいくと目標は達成できそうです。

それからどの程度回し使いするか。これは、今、だいたい10数%の資源は回し使いをして

いるわけですが、これを目標値14、15ですから、ほとんど達成して、場合によっては、目標を超える達成率が見込まれるということです。最終処分量もさきほど言ったように、みんなものすごい努力をしてくれまして、ぐっと減ってこれも目標値、最終処分量は総量で表していますが、2千3百万トンの目標値に限りなく近づいていて、一応、短期的な循環型社会への道ということであると、結構優等生ということが言えると思います。



資源の生産性を世界で見ますと、日本はかなり先進的です。一番効率がいいのはスイスです。スイスではある物質を使って、一番高い価値を生み出しているということです。次いでノルウェー、次いで日本。ドイツよりも上ですよ。ご覧いただいてわかるように、こういうことですから、あんまり「では」の神と言わないほうがいいというのは、私の日ごろ、申し上げていることです。

他方ですね、注目していただきたいのは、これから資源をたくさん使って伸びる国です。中国、インド、ブラジル、ロシア、こういう国の資源生産性はとんでもなく悪いんですね。こういうところで、どんどん工業製品が生まれているわけです。日本で生まれるならば、効率よく生まれますが、そうではなく非常に効率悪く生産されてしまっているということですから、こいら辺りを我々はアジアの一員として考えていけないといけません。特に、中国やインドをはじめとするアジアの新興国において、どうやって循環型社会を形成していくのかということについて、我々も一緒になって考えていかなければ

ばならないと思っています。

最近、成先生という、前の全人代の副委員長が来られて、私が所属している東京大学で講演されました。そのときに、中国でも循環型社会は非常に重要だと言っておられます。中国では循環型社会と言わずに、「循環経済」と言うんです。そして「低炭素経済」と「循環経済」、「生態経済」。この3つの調和でやっていくということですから、私共が言っている持続可能な社会の3本柱を今、中国で使っていただいているんですね。そういう意味では、私たちのやってきたことが、今、中国でも広がっているわけですが、この状況を見ると、残念ながら循環経済とは言えないです。こういうところでも国際協力として、貢献していく必要があるわけです。とくに、九州は中国、韓国とも非常に近いわけですから、そういう意味での連携を今後図っていくことは、非常に大きな課題ではないかなと考えられるわけです。

循環型社会形成推進基本計画のポイント
— 進捗状況を把握するための指標の設定 (循環型社会形成に向けた取組に着目した指標・取組指標)

(1) 目標を設定する指標

地域(大区分)	指標(大区分)	平成12年度実績
1 産業廃棄物の減量化		
ア 一般廃棄物の減量化	(ア) 1人1日当たりごみ排出量	平成12年度比約10%減
イ 産業廃棄物の減量化	(イ) 1人1日当たり産業廃棄物排出量(ごみの量)	平成12年度比約20%減
	(ロ) 産業廃棄物(ごみ)発生量	平成12年度比約20%減
2 循環型社会形成に向けた産業・行動の変革		
ア 産業物の生産中や循環利用、グリーン購入の促進等	ア 産業物の生産中や循環利用、グリーン購入の促進等	約90%
イ 産業物の生産中や循環利用、グリーン購入について具体的な行動	イ 産業物の生産中や循環利用、グリーン購入について具体的な行動	グリーン購入促進率として約20%
3 循環型社会形成に向けた取組の推進		
ア グリーン購入の推進	グリーン購入の推進	全ての地方公共団体 上場企業 約50% 非上場企業 約20%
イ 環境教育の推進	ISO14001認証取得件数 エコアクション21の認証取得件数	普及拡大(数値目標なし) 6,000件
ウ 循環型社会形成推進事業の取組	環境教育・環境教育の普及状況 事業数	取組の推進(数値目標なし) 平成12年度比約2倍

それから、みんなの取組です。もちろん、普通の家庭で、一般ごみをどうやって減らしていくのか。それから産業廃棄物。これはかなりよく減らされているのがおわかりいただけると思います。

また意識ですね。廃棄物の減量化、循環利用。グリーン購入。だいたい9割の人が、そういうことに意識を持っている、少なくとも半分くらいの人が行動に移しているという状況になってもらいたい、というのが今の取組についての目標です。それ以外に環境をビジネスに展開するというのも、非常に重要であると考えられます。

地域循環圏とは何か
～第2次循環型社会形成推進基本計画より～

第1章 第2節 課題
(1) 地域コミュニティの再生などを通じた地域循環圏の構築
(前掲)個々の循環資源に着目すれば、その性質ごとに最適な循環の経路は異なります。それぞれの最適な経路を踏まえ、地域の特性を活かした地域循環圏をきめ細かく構築し、循環型の地域づくりによる活性化につなげていくことが、効果的な循環型社会形成に向けた課題といえます。

また、地域の実情に視ざした、地域で自発的に行われる循環型社会の形成に向けた取組が積極的に行われることは、例えば地域において循環型社会の形成を担う人材が育成され、ネットワークが形成されるとともに、地域の様々な人々が地域コミュニティに積極的に関わることによって、そのつながりが強化され、「地域コミュニティの再生」に結びつくのみならず、地産地消を志向した地域に根ざした産業や地域社会に調和した健全な新産業などがコミュニティビジネスとして雇用の機会を増やすなど、自立と共生を基本とした「地域再生」の原動力となります。こうした取組により、地域の特性に応じた地域循環圏の構築につなげることが課題です。

これを受け、国は、地域循環圏を踏まえた循環型社会づくりを行うこととされている(第2次循環型社会形成推進基本計画 第5章国の取組 第2節)

新しい第2次の循環基本計画は、私が部会長として取りまとめをしたわけですが、いくつかの新しい取組をこの中に含めさせていただきました。その1つが、地域循環圏という考え方は。地域循環圏というのは、今まで、鉄ならば鉄、バイオマスならバイオマス、ごみならごみと分けて議論していたものを、そうではなくて、1つの地域を単位にそれらがうまく回るような仕組みを作っていくということ、これから考えることが必要じゃないか。そういうことに思いが至って、これを政策の中に込めていただいて、そして、今、これについてのさまざまな事業も展開をするようになってきているという状況です。

これには、私共が込めた大事な意図がございまして、それは何かというと、循環型社会の形成が、ただ資源の節約だとか、資源の再利用に貢献するだけでなく、そのことがこれからの地域の豊かさだとか、地域の経済的な活性化というものとうまく結びついて、これからの地域のエンジンに循環型社会がなっていってほしいということなんです。

循環型社会形成推進基本計画のポイント
— 地域循環圏について —

循環資源の性質ごとに、地域の特性に応じて構築したイメージ。

● 経済的自立や経済的持続可能性の確保によって、大まかに分類すると以下の通り。

① 一般廃棄物の減量化
② 産業廃棄物の減量化
③ 循環型社会形成に向けた産業・行動の変革
④ 循環型社会形成に向けた取組の推進

⑤ 地域循環圏の構築
⑥ 地域循環圏の構築
⑦ 地域循環圏の構築
⑧ 地域循環圏の構築

そういうことで地域循環圏というのを、いわば新しい地域のあり方を考える1つの大きな手掛かりにしてもらいたいということです。

「地域を循環的に」と言っても、ものによってサイズがあるわけです。例えば、農産物は今、大量に海外から輸入しています。残念ながら、日本の農産物はほとんど輸出されてないという状況の中で、日本の農業が大きな危機を迎えているわけです。こういうものは、できるだけ地産地消でやったほうがいいわけです。もちろん、アメリカの農業と比べて日本の農業というのは、非常に効率が悪いことが大きな問題になっていますし、高齢化の進行なんていうのも、非常に大きな問題になっているわけですが、しかし、こういうものも付加価値を付けることによってアメリカの農産物には絶対に真似のできないような良いものを作って、場合によっては中国の消費者にこれを輸出するというを通して、地域づくりにしていくことを進めていけば、農業、また林業も同じことだと思いますが、そういうものが地域づくりの将来の柱に成り得るんじゃないか。そういう考え方が今、出てきているんです。ですから、そういうふうな考え方、言い方換えれば、地産地消の農林水産業の振興ということになると思いますが、そういうことはできるだけ地域に狭く閉じた方がいいですね。

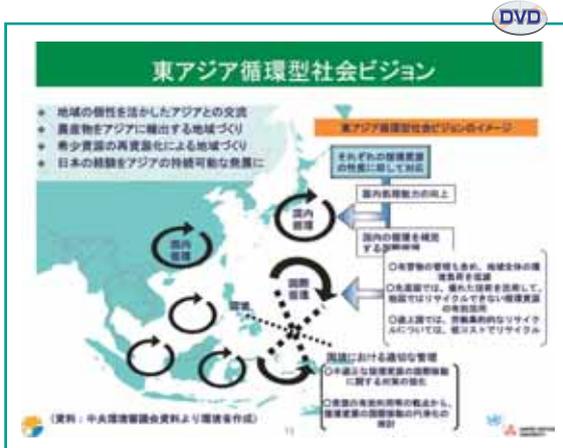
それに対して、いわゆる産業廃棄物のようなものを地域ごとに処理していくというのは、極めて効率が悪いですから、これはいくつかの日本の中に拠点を設けて、そして適正に処理していくことが必要だということになると思います。最近、ごみも焼却をしてエネルギー回収をしようとする、ある程度のマスがないと稼働の効率が悪いものですから、できるだけ広域自治体から集めていくというような考え方も出ています。

それから、今、話題になっているのは、21世紀、日本は資源大国だ、という考え方があるんです。何でこんな資源がない国を資源大国だということなのですが、実は、地下資源には乏しいんですが、我が国には地上に貯えら

れた資源がたくさんあるんです。例えば、皆さんがお持ちの携帯電話。この携帯電話に含まれている金の量は、例えば、南アフリカの金鉱山の掘り出した原石に含まれている金の量よりもはるかに高いです。ですから、これは言ってみると、私たちは、身近な都市に鉱山を持っているようなものだ、と言えるんですね。その考え方を「都市鉱山」と言うんです。都市鉱山ということから言うと、日本は電化製品がたくさん巷(ちまた)に溢れていますから、そういうものを次の機種に換えるときに、それを捨てないで全部集めて、そこから金でもインジウムでも回収していくと、これは天然の資源を利用するよりもはるかに効率的に、それを取り出すのに使うエネルギーの量も少なくて利用できるんです。そういうことから言うと21世紀、日本は実は資源大国だということです。次の機種が更新されるときには、金の使用量がもっと少なくていいですから、結局、それを使い回しすれば、もしかしたら天然資源から取って来なくても、今ある資源から使い回すことによって、それを持続的に使っていくことができるかもしれないのです。

ただし、それだけの携帯電話を集めようとなると大変です。例えば、中国の携帯電話、全部いらっしゃいというふうなぐらい。先ほど申しましたように残念ながら、中国ではそういうものが環境に捨てられています。中国だけではなく、途上国ではこういう携帯電話だとか、電化製品を処理する能力がないものですから、それを捨ててしまい、逆に、そういう物質が有害物質になって、環境を汚染しているという問題もあるんです。もちろん、将来はそういうところでも適正な処理をする場所を作っていくということに対して、我々は協力していかなくてはいいませんが、そういうことを考える場合の広がりというのは、これは、東アジア全体、あるいは東南アジアを含めたアジア全体なんですね。

ですから、地域循環圏というのは、リユースを勧めるような普通の人のリサイクル市場、リサイクルバザーと言いますが、あれはリサイクルではないですね。あれはリユースなんです。

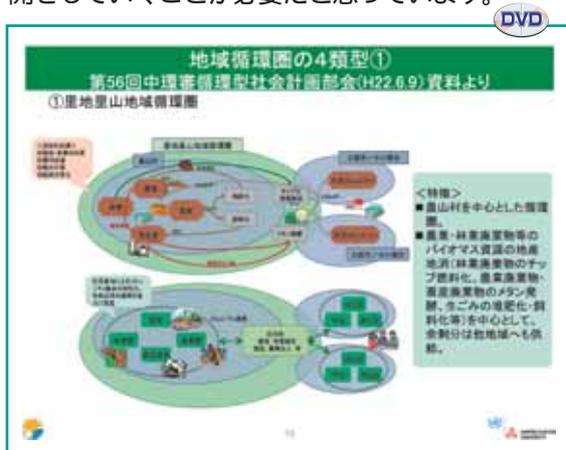


リサイクルはもう1回製品に戻すということです。普通に皆さんがやっているリユースのマーケットというのはコミュニティーベースです。それから地産地消の農林水産業、これは、いくつかの市町村が集まった範囲。それから産業廃棄物はさらに広域的に捉えて、日本にいくつかの拠点を設ける。それから、今、申し上げました希少金属の循環の利用。これはアジア全域というような考え方をしていくということが重要です。そのときに、これも原則ですが、まず、国内の循環を優先する。それから汚染物質ですね。以前、日本で使用済みの医療の廃棄物、例えば、注射針なんかが入ったものを大量にフィリピンに輸出して問題になりましたよね。ああいうのを、禁止する条約があるんです。国際的に「パーゼル条約」と言いまして、有害物質の国境を越えた移動を禁止するわけです。それはもうきちっとやらなきゃいけない。その上できちっとしたルールに基づいて資源を国際的に循環していく。これが私たちが、今、提案している「東アジア循環型社会のビジョン」というものです。



地域循環圏については、いくつかの循環の広がりがあると思うんです。例えば、里山のような地域ですね。それから、都市と農村が繋がったような地域。それからこれも今日、表彰の中にありましたけれど、例えば、コンクリートをもう1回資源として使うという地域内の動脈と静脈をうまくつなぐような地域の循環の仕組み。もっと広域的に、例えば、北九州のように大きな循環産業の拠点を設けて、アジアぐらいを視野にいろんなものを受け入れて来る。

実はPCBの処理施設を北九州が受け入れたときに、ずいぶん市民から反対があったのを北九州市が、「北九州という町がこれから活性化して成長していくためには、そういうものを適正に処理できるんだ、とそういうことをみんなに示さなくてはいけない」ということで、市民の皆さんの理解も得て、そういう施設が立地するようになったわけです。そういうものへと展開をしていくことが必要だと思っています。



ちょっと時間があまりありませんので、個々にご説明をいたしませんけど、最近、私共、COP10で、「里山イニシアティブ」というのを提唱いたしました。里山の資源をうまく使うと、これはバイオマスですから、低炭素にもなる。それから、木材、食べものを回し使用すると循環型の社会になる。そして、森林の手入れが進んだり、農地が適正に管理されることによって、これが自然共生社会にもなると提唱しましたら、COP10で非常に皆さんに支持されまして、その締約国会議の決議文の中にも、日本が推奨する里山イニシアティブというものを世界各国が大事な取り組みだということで、

地域循環圏の4類型(2)
第56回中環審理型社会計画部会(H22.6.9)資料より
②都市近郊(都市農村連携)地域循環圏

<特徴>

- 構成資源の排出側である都市と受入側である近郊(農村)との連携を中心とした循環圏。
- 農村で採入可能なバイオマス資源の連携率が高い。生産した廃棄物を都市圏で消費するという循環も形成。
- 都市での回収がポイントとなるケースが多く、先述の事例では回収の割合における優位性が異なる。

地域循環圏の4類型(3)
第56回中環審理型社会計画部会(H22.6.9)資料より
③静脈産業地域循環圏

<特徴>

- 循環資源の大きな受け手である静脈産業(セメント、鉄鋼、自動車等)等の製造業を中心とした循環圏。
- 高付加価値品、高品質品からの大規模な循環資源の集約等により効率的な循環も形成。

地域循環圏の4類型(4)
第56回中環審理型社会計画部会(H22.6.9)資料より
④循環型産業(広域)地域循環圏

<特徴>

- 循環型産業を集めたエコタウンを中心とした広域的な循環圏。
- 採入する資源(処理)技術に優位性を持つ。
- 広域で採入することによる循環の効率性を高める。

皆さんでこれを盛り立てていこうという文面が含まれたというわけです。

とりわけ、開発と生物多様性の保全をどうやっていこうか、と悩んでおられる途上国、とくにアフリカの国々の方々が、私共の活動を非常に高く評価してくれて、大変ありがたいと思っております。都市と農村の連携も大変大事です。都市の廃棄物が農村の資源になる。そして、農村の生産物が都市の人に消費される。こういう顔の見える関係の中に、地産地消を推進

していくのが大事です。それから、さらには動脈産業と静脈産業をつなげて、地域の中で1つの産業のネットワークを形成する。さらに、世界に冠たるエコタウンのようなものをつくって、21世紀の日本の産業はこういう方向なんだというふうに、日本の社会全体の仕組みを変えていく大きな起爆剤としての、この循環型社会は使っていけるとよいと思うわけです。

循環型社会と自然共生の関係
～第2次循環型社会形成推進基本計画より～

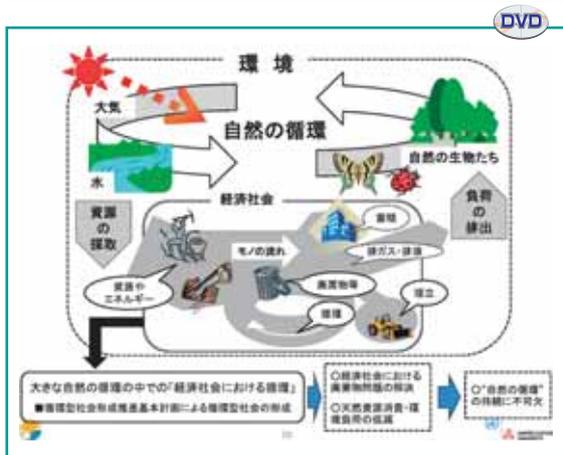
循環型社会の実現は、自然界における循環を取り戻すことにつながります。自然界における環境は、大気、水、土壌、生物等の間を物質が循環し、生態系が微妙な均衡を保つことにより成り立っています。このような環境の中に生かされている私たちが、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会を営んでいくことは、自然界へ大きな負荷を与え、ひいては私たちの社会を持続していくことを不可能にします。

私たちが目指そうとする循環型社会では、自然界から新たに採取する資源をできるだけ少なくし、長期間社会で使用することや既に社会でいったん使用済みとなったものでも循環資源として投入することにより、最終的に自然界へ廃棄されるものをできるだけ少なくすることを基本とします。その結果、より良いものが多く循環され、それを活かして豊かさが生まれる、いわゆるストック型社会の形成も可能となります。

自然の循環を尊重し、人間社会における廃棄も含めた物質循環を自然、そして地球の大きな循環に溶け込んで健全なものとするこゝで、持続可能な社会が築かれていきます。

循環型社会言い始めたときには、廃棄物の問題から入ったものですから、今でも廃棄物中心の話だと思われがちです。実は、廃棄物だけでなく、製造物と廃棄物の関係でもあるし、地域の社会の仕組みということの関係でもあるし、それを支えるさまざまな主体の問題の関係でもある。中国で循環経済と言っていますが、この中には、実は水の循環なんかも入っています。私どもの循環型社会の概念の中には、残念ながら、水の循環は入ってないんです。循環型社会をもっと大きく捉えていくと、言ってみると、人間活動と自然環境、これをどうやってうまくバランスさせられるか。こういう問題になるんですね。循環型社会と自然共生社会は、実は表裏一体の関係にある。この2つを一緒にこれからは考えていく必要がある。

おそらく、次の循環基本計画の見直しの中では、こういう点が非常に大きな話題になってくると思います。これは役所でもそうなんですが、悪いところは全部縦割り循環をやる、例えば、県庁でも市役所でも循環基本計画の部局の人と、自然保護を担当する部局の人は、宴会かなんかでは口をきいているのですが、行政の中ではほとんど口をきかない関係になって



るんですね。それはだめなんです。これからは自然保護をやっている人とごみをやっている人が一緒に考えることによって、それが良い地域づくりにつながって、地域のビジネスにもつながっていく。こういう発想をしていかなくてはいけないんですね。

つまり、自然の循環と、人間がつくったものの循環を、どこでどう融合させていくのかを考えていく。つまり、循環型社会は、人間社会の循環と自然社会の循環をつなげた大きな循環の輪を捉えていくという考え方になっていかなければいけないわけです。

それで「生物多様性国家戦略」という、やや、おどろおどろしい名前の閣議決定された計画もありますが、今まで循環基本計画をやっている人と生物多様性国家戦略をやっている人とほとんど口をきいてないですね。ですから、是非この2組を同じテーブルにのせて一緒に議論しなさいと皆さんにお願いしようと思っているところです。

そういうふうなことの結果、おもしろいことができるという例を申し上げたいんですが。

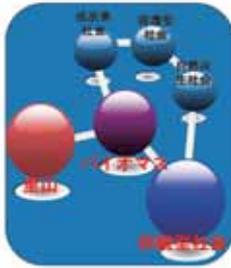
特定の会社を宣伝すると非常にまずいんですが、熊野さんという人が社長をやっているアマタという会社は、もともと3Rの会社です。苦勞して3Rの会社を大きくして、今、何をやっているかというところ、里山で牛を飼っているんですが、何をしているかというところ、今、里山を管理する人がいません。それで里山に牛に入らせるわけです。牛は里山の木や草を食べるんですね。これが管理になるんですね。それで舎内ではないですから、雪の中でもこんなに飼われているので、ものすごい健康なんですよ。それで、なんと、熊野さんは普通の牛乳の7倍の金額で売ってるんです。普通は買わないと思うでしょう。これが完売なんです。それだけクオリティーがいいから。それでまたアイスクリームを作って、それでそのアイスクリームを高い値で売る。

こういうビジネスですよ。アメリカに負けないように安いものをつくらうと言っても勝てるわけじゃないですよ。そうじゃなくて、アメリカと比べものにならないようないいもの、みんなが高くて買ってくれるものを作り出していくという、そういうビジネスモデル。これは、まさに、循環型社会と自然共生社会の融合モデルです。こういうことを今まで誰もやっていなかったんです。彼はそれでやってみて、全然採算割れしていないということなんです。

こういうビジネスモデルというのは、別に彼1人がこういう知恵を出せたというわけではないですから、いろんな人がいろんなモデルを考えていけばいいと思います。

新たな地域管理の仕組みづくり

- ・ バイオマス循環・共生圏形成のためには、社会システムの設計が必要
- ・ 従来の行政・産業のグルーピングを超えた仕組み作りが必要
- ・ 農林水産業、廃棄物政策、エネルギー政策、観光振興などを統合
- ・ 第一次、第二次、第三次産業の統合化による第六次産業化
- ・ 企業、NPO/NGO、都市住民などが水平的な関係で地域管理に参画(新たなコモンズ)



最後になりますが、バイオマスを中心に、里山の問題も、低炭素の問題も、循環型社会も自然共生社会も地域の中で、同じことを別の側面から捉えてるんだと。それはお互いに関係があるので、それらを全部含めて一緒になってやっていくことが必要なんじゃないか。1次産業、2次産業、3次産業なんて言ってないで、これを

6次産業化したらどうか。これは私たちの大先輩の東大名誉教授の今村先生が提唱したんですね。彼はこう言ってるんです。「1と2と3を足して6になる。1と2と3をかけても6になる。今必要なのは1と2と3を足した6次産業じゃなくて、1と2と3をかけた6次産業をつくることだ」と。

そういうようなことを循環型社会の議論の中でも、是非、皆さん方も一緒になって考えていただくと、日本の21世紀はいい社会になっていくんじゃないか。そんなふうに私は思っているわけです。

以上で私の講演を終わらせていただきます。どうも、ご清聴ありがとうございました。



このマークが付いている資料のデータは、巻末のDVDに保存されています。



左側奥スクリーン：要約筆記

右側スクリーン：ユーストリーム中継

●記念講演 「わたしのおすすめ 身近なエコ」



乾 貴美子（タレント）

皆様、こんにちは。乾貴美子でございます。今日はよろしくお願いたします。東京大学大学院の武内先生の後、私のような若輩者が出てきてしまって大変恐縮しております。私の話は雑談レベルの気軽なトークですので、リラックスしてお楽しみください。こんなワインボトル持って来て、一杯飲みながらお話するわけじゃないんですが、気軽に聞いてください。

私、今日飛行機に乗って佐賀県の方にやって参りました。飛行機に乗るときはいつも罪悪感を感じてしまいます。同じ距離を移動するのであれば飛行機と、鉄道、電車を比べた場合、電車の方が二酸化炭素の排出は10分の1なんですってね。今日、お集まりの皆さん、環境問題に非常に関心があり、いろんな知識をお持ちの方たちなので、当然こういうことをご存知かと思うのですが、二酸化炭素が出る量を鉄道より10倍出してしまうということをちょっと知識に持っている、飛行機に乗るときになんか悪いことをしているようなそんな気持ちになってしまいます。でも、どうしても時間的な都合とかで今日は飛行機に乗って来てしまったんですが、ちょっと罪悪感を感じながら、やって参りました。

私、昨日は何をしていたかという、明治神宮に行きました。九州、佐賀県にはたくさんすばらしい神社があるので、わざわざ明治神宮までお参りに行かれた方は少ないかと思うんですが、明治神宮の近くに私、住んでいます。明治神宮と言えばお正月の初詣で日本一たくさんの方がお参りに来る場所です。その場所ができたのが大正9年11月1日ということで、ちょうど90年前の昨日、できたそうなんです。90歳のお誕生日、90周年とは

言わないんですかね。できて90年ということで、そのお祝いがありまして私たち近所に住んでいる人たちは提灯を持って境内を、参道を練り歩くんですね。その提灯行列に参加してきたんです。私は東京に住んでいるんですが、珍しく東京なのに濃厚なご近所づきあいがありまして、うちのお向かいさんとそのお隣さんと、そのまたお隣さんで誘って「提灯行列行こうよ」という感じで夜7時に出発したんですが、お父さんたちは仕事で来れなかったもので、私のご近所のママ友4人と子どもが、うちの子4歳の女の子なんです、うちの子を入れて7人、総勢11人で参加して来ました。

子どもは夜の街を歩くことなんて滅多にないものですから、ものすごいハイテンションで提灯を持って出発したんですけれども、手に持っていた提灯は中にろうそくがあったら倒れてしまったりして危ないので、中に小さなライトが入っている形のものでした。参道の両脇に、灯籠がおいでありまして、中にろうそくが立っていて、ほのかな光がちらちらと見えるんですね。明治神宮は陽が昇る時間に開門して、夕方には通常閉まってしまうところなので、街灯は1つもないんです。東京では考えられないような、街灯がない道をろうそくの灯りと提灯の灯りで歩いて行ったんですが、明治神宮は広さが70万㎡。ものすごく広いので、本殿まで行くのに片道20分、大人の足で20分、子どもと一緒に30分くらい歩くんですけれど、暗闇の中をこうやって歩いて行きました。

いろいろおしゃべりしながら本殿まで到着して、お祝いの津軽三味線を聴いたり、歌を歌ったりして、お参りをして帰っていくんですけれど、帰り道は子どもたちはずっとテンション高いまま

です。キャッキヤ言いながら走っていくんですが、提灯は手に持ってますよね。提灯もだんだん電池がもたないからって、切ってしまったりしている子が一杯いるんです。道の横に飾ってある灯籠も、子どもはろうそくを見ると反射的に吹き消したくなる生き物なんですよ。なぜかという、子どもがろうそくを見る機会ってそんなになくて、1年でおそらく誕生日の1回だけなんです。誕生日ケーキの上に乗っているろうそくくらいしか見たことがないので、ろうそくを見たらハッピーバースデーおめでとうを歌って、ふっと吹き消す習慣がついていますのでパブロフの犬みたいに、吹き消さないと気がすまないみたいなんです。せっかく、明治神宮の人たちが1つ1つ大事に飾ってくださった灯籠を帰り道は吹き消しながら、歩いていくんです。私たちは行列の一番最後にいましたし、閉門する時間も迫ってましたし、ろうそく消してもあまり怒らずに道を歩いていたんですけれども。

帰り道、行く先はろうそくもついていて、人もたくさん居て、提灯の灯りもあるので明るいんです。だけど、ふと後ろを振り返って見たら、全部灯籠のろうそくが消えてしまっているの、真っ暗闇です。明治神宮はすごく広くて森林かなと思うくらい木が覆い繁っているんです。物凄い数の木と緑に囲まれて暗闇でもしかして人間以外の生きものがいるかもしれない。虫の音がするけどどこにいるのかわからない。そんな状況を体験してみたら、すごく怖くて、大人なお化けが出てくるんじゃないかとちょっと怖くなって、涙が出てきてしまったくらいなんです。だいたい私たち日常生活で暗闇を体験することはあまりないと思います。家で電気を消しても部屋の広さは限られていますし、だいたいどこに何があるのか体が覚えているので普通に暗闇でも歩いて行けたりするんですけれども、昨日私が行った明治神宮のように本当に何も知らない場所で、全く灯りがない真っ暗闇を体験すると灯りってすごい力を持っているんだなと実感しますね。今日はこんなにたくさんシャンデリアがあって、きれいな灯りがついてお部屋なんですけれども、普段こうやって灯りがついていないことが当たり前だと、電気のあり

がたさに気づくことはないんですが、ふとしたときに暗闇に追いやられると、人間でこんなにも弱い存在だと実感して怖くて、怖くてたまらなくなっていることを昨日は実感して参りました。昨日はとて素晴らしい経験をさせていただいたと思っています。

明治神宮のお話ばかりしちゃってごめんなさいね。せっかく佐賀にお邪魔して、すばらしい神社がたくさんあるのに。近所の明治神宮の話をしていただくと、先ほど70万㎡の広さということをしりあげたのですが、17万本の木がはえているそうです。私はその木は元々そこにはえていたものだと思っていたんです。最近、引っ越して来た場所なので、東京でも結構緑が多いんだな。わざわざ山の方に行かなくても、こんなにたくさん緑が見られるんだなと思っていたのですが、気になって調べてみたところ、すべてそれは植樹されたものなそうなんです。明治神宮をつくるにあたって、そこは全くの何も無い野原だったそうですが、日本全国はもちろん台湾、中国、朝鮮からたくさん献木されてきて、最初10万本くらいだったそうですが、11万人くらいの方が一生懸命に植えて森林をつくったということです。朝鮮ですとか違う風土のところから来た木が、東京の風土に合うとは限らず枯れてしまったものもあったそうなんです。90年前に木を植えて50年後に調査したときは、それが昔からそこにあった自然の形としてはえていたそうなんです。枯れてしまった木もあったそうですが、50年経てみたら自然の形になっていたということで、これはとても珍しいことで世界中から注目される神社になったという、調べてみたらそういう知識を得まして自然の力はすごいなと実感しました。昨日1日で灯りのありがたさ、自然の力のすごさを実感して参りました。

今日は、こうやって佐賀県にお邪魔しまして、お話をさせていただいているのですが、なぜ私が、環境問題がテーマの催しものを選んでいただいているかと申しますと「環境社会検定試験」いわゆる「エコ検定」という検定試験に第1回に合格しまして、検定に合格しているんだったら、エコのことしゃべれるんじゃないですか、というこ

とでお声掛けをいただきました。エコ検定を受験された方はいらっしゃいますでしょうか。やはり、いらっしゃいますよね。4年前に始まった検定試験で、今年は第9回目が12月19日に開催されます。今からでも申し込み、間に合います。皆さん、環境問題に関心がおありで、たくさんの知識をお持ちだと思いますのでチャレンジしてみるのもいいのではないかと思います。

100点満点で、マークシートで解答していくのですが、70点取れば合格という検定試験です。どういう問題が出るのかというとマークシートなので選択問題です。例えば「酸性雨ってなんでしょう」「1975年にワシントン条約が結ばれました。どういう条約でしょう」といった問題が出題されます。非常に幅広い出題内容で検定試験のために勉強すると、今起きている環境問題がどういことなんだ、どうして起きてしまったのか、これから先どうすればいいのか。そういったことを総合的に勉強することができる検定試験です。

第1回に受験してみたんですが、8割が合格だったそうです。ほとんど全員が受かる簡単な試験かなと思われてしまいそうですが、第2回以降は6割から7割の方が合格されるそうです。なんで1回目だけ、合格率が高いのかというと、おそらく1回目なので環境問題に関心があって、そういう知識を元々持っている人たちが集まったので、きっと皆さん優秀で合格率が高くなったのかなあと思います。その後は6割から7割くらいの方が合格される試験で、昨年は6万人の方が受験されたそうです。最初は3万人くらいだったんですけど、年々受験者の数が増えてきて、皆さん、環境に対して深い関心をお持ちなんだということが、この検定試験の受験者数からも伺えますね。

合格するとどんなことがあるのかというと、国家資格のようなものではないので合格したら何かができるようになるというわけではないんですが、例えば就職試験を控えている学生さんだったら「私、エコ検定受験して合格しました」というと、ちょっと、それがアピールポイントになったり、そういう環境に対する知識があることでお仕事されている方は、新たな事業が始められたり、企業全体で受験すればその企業のイメージ

アップにつながったり、主婦の方が受験すれば、なぜ日々ごみを分別しなくてはいけないのか。レジ袋をお断りしなくてはいけないのか。そういう「なぜ」の部分が理解できるので、より環境に対して配慮した生活を送れるようになるかと思いません。本当に勉強するといろいろな知識を学ぶことができるので、ぜひ、皆さんもチャレンジしていただきたいというふうに思います。今年は12月19日曜日です。ちょっと情報を調べて受験してみたいかがでしょうか。

私はエコ検定を受検してみたことで、環境問題でどういうことが起きているのかがわかったし、レジ袋お断りしましょう。ごみは分別しましょう。マイ箸を持ちましょうとか、そういうエコな行動をなぜやらなきゃいけないのか。「なぜ」の部分があったので、とても自分がやらなくてはいけないことに納得をして、行動することができるようになりました。

それと同時に環境問題がいろんなところで叫ばれていますので、ごみ分別しましょう、マイバッグ持ちましょう。いろんなことが言われていますが、そういうエコな行動として推奨されていることが、全部が全部正しいことではなくて、中にはちょっとこれ違うかなとか、本当の知識、正しい知識を持ってやらないと実は環境に配慮しているように見えて、エコじゃないということがあるんだなあ、ということも学ぶことができました。

例えば、マイバッグですが、なんでマイバッグを持ち歩かなくちゃいけないのか。マイバッグはブームにもなっていますし、レジ袋をレジでお断りすることがちょっとカッコいい感じもしますし、たくさんの方がマイバッグを持ち歩かれています。なぜマイバッグを持ち歩かなくてはいけないのかと言われると即答はできなかったのですが、エコ検定でなぜの部分勉強することができました。レジ袋というのは、石油から作られています。石油というのは限りある資源なので、なるべく使わないようにしましょう。レジ袋を私たちがもらってしまうと、その分たくさん作らなきゃいけない。そうなる则たくさん石油を使ってしまうので、なるべくレジ袋はもらわない

で、自分のバッグに買い物したものをに入れて持って帰りましょうということなんです。

レジ袋も100%悪いわけではないんです。私は、レジ袋はもらっちゃいます。マイバッグは持ち歩いていなくて、レジ袋をもらっちゃいますが、それはなぜかという、これはあくまで私が住んでいる自治体のできごとですが、私が住んでいるところでは、ごみ袋を有料のものを購入しないでレジ袋にごみを捨てて、ごみ処理場に送ってもいい、ごみ捨て場に置いてもいいということになっているんです。だから、レジ袋をスーパーマーケットですとかコンビニからちょうだいして、それをそのままごみとしてごみ袋に入れて捨ててしまっただけでは、それは無駄になってしまうのですが、レジ袋をレジでもらって買ったものを中に入れて、家まで運んでそれをごみ袋としてリユースすれば無駄にはならないと思うんです。有料のごみ袋を買わなくてもいいという自治体であれば、有料のごみ袋を買うことの方が無駄な資源を使っていて環境にも配慮していない行動だと思うので、あくまでも私が住んでいるところではレジ袋はリユースできるので、そんなに必死にマイバッグを持ち歩いてレジ袋をお断りしなくても、ごみ袋として再生させればいいんじゃないかな、という理由から、私は持ってはいるんですが、あまりマイバッグは持ち歩かないでレジ袋をちょうだいすることも多々あります。

一番いけないのは、マイバッグをたくさん買っちゃうことだと思うんです。マイバッグは1つあればいいですね。だけど今雑貨屋さんとか、おしゃれなお店に行くといろんなマイバッグが並んでいて次々に欲しくなっちゃうんです。四角いものもあれば、ちょっと立体的なものもあって、大きさも大・中・小、いろいろあります。あれも欲しい、これも欲しいとたくさん買っちゃうんですが、マイバッグをたくさん買う行動こそ、環境に配慮していないエコじゃないことだと思います。レジ袋をもらわない代わりに、マイバッグをたくさん買って、そのバッグを作るために石油を使っていたのでは全く意味がないことなので、レジ袋を断ることよりもマイバッグを1つしか持たないことの方が重要なんじゃないかなと思います。で

も、マイバッグあちこちでいただくこと、景品としていただくこともありますし、可愛いのも一杯あるので、ついつい、たくさん揃えなくなっちゃうんですが、そこをぐっと我慢して「うちには1つマイバッグがあるから、これをずっと使おう」というふうに考え方を方向付けていった方がいいかなと思います。

もし、マイバッグを買おうであればコットン100%、綿100%のものが一番いいと思います。ナイロンのものだと、それだけ資源をたくさん使って作られていますので、ナイロンのものよりはコットンのものを購入する方がいいかなと思います。

買い物するときも、ものを選ぶにあたって、これは素材が何なのかそれを考えるだけでもエコな行動ができると思います。今は例えば同じノートにしてもグリーンマークが付いているもの、付いていないもの、どっちを買うか、どっちを買うことがエコなのか、グリーンマークの付いているノートの方が、ちょっと値段は高いかもしれないんですが、そっちを購入する方が森林を守ることにつながったりするので、お買い物の際にものを選ぶとき、ちょっとしたマークを探したり、素材を見たりするだけでエコな活動ができると思います。

日常の小さいことからエコなことは始めるしかないんですよ。そう思っている私もやろうとしているのですが、マイ箸は持ち歩かないことにしています。お箸はいろいろな考え方があるかと思いますが、皆さん、ご存知だと思いますが、日本で使われているお箸の内9割は中国で作られた安いお箸です。中国で作られたお箸というのは、だいたい日本に輸出するために森林をわざわざ伐採して、お箸として作られたのがほとんどなんだそうです。だけど日本製の割り箸というのは、森林を守るために間伐した木材で作られていたり、木材で何かを作った余りの木から作られているものなので、日本製の割り箸であれば使っても環境破壊にはつながらないんですよ。むしろ、間伐材ですので森林を守ることにつながっているのも日本製だったら、じゃんじゃん使ってもいいんですよ。そういう話を聞いて、じゃあ、何もわざわざマイ箸を買って持ち歩かなくて

もいいのかなと思って、あえて持ち歩かないようにしているんです。

かと言って、飲食店で食事をするとき「お宅で使っている割り箸は中国製ですか、日本製ですか」とそんなことを聞いて食べるわけにはいきませんので、ちょっと矛盾していることではあるんですけども、なるべく日本製の割り箸を自分で買うのであれば購入して使うようにしています。



割り箸は1回使ったらごみになってしまって、それを燃やしたら二酸化炭素が出るし、結局、環境破壊につながると言えばつながってしまうんですけども、マイ箸にしてもマイ箸を使ってお食事をして、それを洗剤で洗ったら、その洗剤が水質汚染につながりますし、割り箸かマイ箸かは、どっちがいいとも言えずに本当にどうしていいか迷ってしまうことですね。だけど迷うということは、なんとなく関心があって、知識があるということなので、迷わないで中国製の割り箸をじゃんじゃん使っちゃうことよりはいいかな、なんて思って自分を慰めることもあります。

本当にいろいろどっちがいいと言えずに難しい問題がたくさんありますね。お部屋の電気にしても難しいことだと思います。電気はもったいないので、使わない部屋の電気はこまめに消しましょうとあちこちで言われていて、おそらく皆さんもそうされていると思います。私もなるべく電気は消すようにしています。これもパチパチ消してはいけないんですけどね。電球のワット数ですが、お部屋の広さにもよるそうですが、日本の家のお部屋だと平均すると4分、電気を消して4分以内にその部屋に戻っちゃうんだったら、つけっ放しの方がいいんですけど。なんでかと言うとス

イッチを押した瞬間にたくさんの電力を消費してしまうので、電気をつける瞬間をつくってしまうよりは、そのままつけておいた方がいいということもあるそうです。

私、よくやってしまうのが、ある部屋にいました。その部屋の用が終わったのでリビングの方に戻りました。「ああ、そうだ。あの部屋に携帯電話を置いてきちゃった」。リビングに戻ったのに、またすぐその部屋に戻って電気つけて携帯電話取って「ああ、よかった携帯あった」とまた電気消してリビングに戻って「そうだ、手帳もあの部屋にあった」と思って、また電気をつけて手帳を持って電気を消して、またリビングに戻る。行ったり来たり、つけたり消したり、私はよくやるんですが一番いけないことだそうです。4分以内につけたり、消したりするんだったら、つけっ放しの方が消費電力は少ないそうなので、こういうことも知らずに、とにかく電気はつけたら消さなきゃとパチパチやってると、意外な盲点でたくさんの電気を使ったりするんですよ。

だから、日常生活で電気を消すときは、この部屋に本当に用がないのか、よく考えてから忘れものがないか、よく考えてから消すようにしています。本当に些細なことなんですけれども、こういうことの積み重ねでエコな行動ができていると言えるようになるのかなと思います。

今、電気のことをお話させていただきましたが、打ち水にしてもそうですね。今年の夏、暑かったですね。うだるような暑さで、暑いから打ち水をされた方も多いと思うんです。テレビでもラジオでも「打ち水しましょう」とあちこちで言ってました。だから、私も何度か水まきしたんですが、これも水道水でやってしまっただけは、あまり意味がないんですけどね。水道水は浄水するときにはたくさんの電気を使っています。水道水をまくよりは雨水をどこかに溜めておいて、それをまいたりとか、お風呂の残り湯を使って、お風呂の残り湯をまいたり、そういうふうにして打ち水をする方が、より環境に配慮した打ち水のやり方なんだそうです。だから打ち水一つするにしても、水道水を使うのか、雨水を使うのか、こういうことが実は大きな違いなんだなと思います。

こんなふうエコロジーだと思ってやっていることが、実はそれほどエコじゃなかったりと勘違いがあるんですが、一番大事なのは無理しないで自分のライフスタイルにあったエコロジーなことを続けること、継続することが一番大事かなというふうに思います。

でもライフスタイルを大人になってから変えるのは大変ですよ。ごみの分別にしても、これまで燃えるごみだったものを「分別してリサイクルに回してください」と言われてもなかなかそれができなかったり、大人になってからライフスタイルを変えることはとても難しいことだと思います。

私は自分の子どもには小さいうちからエコなことを体に染み込ませるようにしています。打ち水をやる時も、これこれこういう事情で打ち水をしているんだよ。水道水じゃなくて、雨水でやった方がいいんだよ。こういうことを言いながら打ち水をしていけば、子どもはそれが当たり前と思って大人になってからも続けてくれるんじゃないかなというふうに思います。

今の子どもは学校でも環境教育を受けているんでしょうね。言われなくても環境配慮した行動をやっていたり、環境に配慮した遊びをやっていることがあって、うちの子がお友だちと一緒に買い物ごっこをやっている、お友だちがレジ係、うちの子がかごにぬいぐるみとか、おもちゃのニンジンとか入れて、買い物をしたふりしてレジの方に持って行って、そういう買い物ごっこだったんですけど、「これください」とお店の方にお願いして、お店役の子どもはお金を計算して「3百2千円です」とか、まだ単位がめちゃくちゃなんで変なことを言って、お金のやりとりのふりとかをやっているんです。そのお金を払ったときに、うちの子が「レジ袋結構です」。こんなことを言ってまして、教えなくても大人がやっていたらマイバッグを持ち歩くこととか、体に染み込ませているんだなと感心させられてしまいました。

逆に私たちの世代は環境教育を受けてないので、自分で積極的に勉強しないと環境に関する知識を得ることもできないし、環境破壊につながるようなことをやってしまうことも多々あるので、

子どもたちはどこかで勝手に習ってくるかもしれないけれど、自分は自分で勉強しないと恥ずかしい大人になってしまうな、なんてことを子どもを見ながら思ったりしました。

なるべく、新聞を読むにしてもテレビを見るにしても、環境問題が取り上げられていたら熱心に見るようにしてるんですけども、難しい問題はたくさんあるなと思います。日常レベルで私がごみの分別をしたり、レジ袋を断ったりするのはすごく簡単です。それが国家レベル、政治レベルとなると簡単にいかないことも多々ありますね。

この間、つい先日ですが、朝のワイドショーのコメンテーターとしてお呼びいただいて出演させていただいたんですけども、「TPP」連日テレビで放送されています。「環太平洋戦略的経済連携協定」という難しい関税に関するニュースを取り上げていたんですね。私、そのときTPPについて知るのが初めてだったので、ぼかんとした顔でキャスターの方の説明を聞いていたんですけど、TPPという協定はアジアの9カ国ぐらいですかね。ペルー、ベトナム、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランドとかそういった国で関税を100%なくしてしまおうという協定で、それに日本は入ろう、入るまいか、迷っているという話でした。アメリカとか中国も関税をなくす協定に入るらしい。日本は入らないと孤立してしまうぞ、なんていうことをその番組の中で知ったんですけども、私はそのニュースを初めて知ったので「関税がなくなるなんてすてきじゃない」とコメントしたんです。関税がなくなれば、今まで税金がかかっていた輸入している食べ物、例えばオーギービーフとかタイ米とか、そういうものの税金がなくなるので今まで800円くらいだったものが300円くらいで買えたりするというニュースだったんです。私、主婦ですので「800円のものが300円で買えるようになるなんていいじゃない。オーギービーフたくさん食べましょうよ」とコメントしてしまいましたが、言いながら、これちょっと違うよな、と思ってたんです。

関税が撤廃されて、私たち消費者としてお肉で



すとか、いろんなものが安く買えるようになるのはいいんだけど、環境のことを考えた場合、それってどうなんだろうと思ったんです。遠くのものわざわざ運んで来て買うということは、遠くからわざわざ運ぶために飛行機ですとか、船ですとか輸送コストがかかりますよね。その分二酸化炭素をたくさん排出するんです。だから、環境問題のことを第一に考えるのであれば、地産地消がベストなわけです。近くで取れたものを購入していただく。食べものに限らず、近くで作られたものを購入すれば、それだけ輸送する距離が短いわけで、その分二酸化炭素を排出しなくて済むわけです。近くのもの、国産のものを購入するのが一番だと思います。

だけど、経済や政治のことを考えた場合、関税がなくなって自由に商品を輸入したり、輸出したりできる社会になった方が経済も発展しますし、安い物が買えるようになるし、いいことだと思うけれどもエコロジーのことを考えるとあまり喜ばしいことではない。でもエコノミーのことを考えるのであれば、そういう協定を結ばれた方がいいしな、と頭がこんごらがってきまして。本当にこっちを立てれば、こっちがうーん、という感じになってしましましてエコロジーとエコノミーは両立できないのかなと考えさせられました。

最近、テレビを見ていて考えさせられたのは、原子力発電のことなんですけれども、今、国内の電力は3割が原子力発電でまかなわれているんですよ。環境問題の番組ですとか、環境問題の記事ですと太陽光発電とか、風力発電とかクリーンエネルギーの電力発電がよく取り上げられていると思うのですが、国内の電力の3割が原子力でまかなわれている。原子力発電は、ご存知の通り、

ウランを元に発電するんですけど、ウランの95%は発電した後、再利用できるそうです。けど残りの5%は灰になってしまって使うことができない。ただの灰であるだけでなく、そこにはたくさんの放射能が含まれていますので、残りの5%というのは高レベル放射性廃棄物というゴミになってしまうんですね。高レベル放射性廃棄物はガラスの中に溶かして、それをステンレス製の容器に入れて保管するそうなんですけど、その容器の数でいうと2万3千本の高レベル放射性廃棄物がすでに今まで発電した分の残りのウランでつくられてしまっているそうなんです。2万3千本分の放射能がたくさん含まれている危ないごみは、私たちがこうやって電気を使うために出してしまったごみですから、人ごとではなくて自分が出したごみということです。そのごみをどうやって処理するのか。もう、すでに2万3千本もあるんです。これをどこにどうやって処理するかという問題をテレビで見ても勉強しまして、これは人ごとではなく、自分のこととして考えなくてはいけないと思いました。

方法としては地下300mぐらいのところに地層処分という埋めることが一番、地下深くですと溶け出すこともないですし、動いたりすることもないので環境にとっても人間にとっても一番安全な方法なんじゃないか、というふうに言われていたんですけれども。では一体、その2万3千本をどこの地下に埋めるのか。これは全然決まっていなくて問題です。今すぐ私たちが解決策を考えていかなきゃいけない問題なんだなというふうに感じました。

とは言え、国家レベルのことは非力な私にはどうしようもないので、日常レベルでできることを続けてやっていかないといけないと思います。

私はエコ検定を受験したのと一緒に、ラッピングコーディネーターというラッピングする資格も持っているんですが、エコとラッピングは矛盾していますよね。今、過剰包装はやめましょうという時代です。そんなラッピングなんて必要ないんじゃないという時代ですが、どうしても私は、紙で包んだり、リボンを付けたりするおもてなしの気持ちが大好きで、ラッピングもついついやって

しまうんですが、なるべくエコなラッピングを心がけています。

例えば、卵のパック、こういう透明な卵が入っていたパックを捨ててしまうのはもったいないので、手造りのクッキーを入れてホッチキスで止めてお友だちにプレゼントしたり、そういう何かを再利用して包むようなエコなラッピングを心がけてやっています。

それと同時にラッピングコーディネーターの資格を取るときに、風呂敷の使い方をいろいろと教えていただきました。いくつか簡単なものをご紹介しますと思います。

風呂敷は必ずご家庭に何枚かあると思うんですが、使い方がわからないという方も多いかと思います。でも簡単なんです。例えば、こんな大きさの四角い風呂敷。角と角を結びます。対角線上の角ではなくて、上と上、下と下という感じで2カ所結んでしまいます。そして、この結び目の間にできた空間にもものを入れて、1つの結び目の下にもう1個の結び目を通してしまえば、これでバッグになってしまうんです。



とっても簡単なんです。他にも簡単な使い方があります。これは誰でも覚えられると思います。風呂敷ってすてきな包み方が一杯あって覚えきれないくらいです。これ一番簡単だと思います。次にご紹介するのは、風呂敷をこうあるものを三角に折ってしまいます。こういう状態にして3つの角を結びます。3つ結んでこういう状態になりました。中にものを入れてここに腕を通せば、もうこれで立派なバッグなんです。簡単なんです。ぜひ覚えて帰ってください。

でも、これだと中身がちょっと落ち易かったりするかもしれないし、スーパーでマイバッグの代わりに風呂敷を持って行って包むとなると場所を

取ってしまってややこしいことになってしまうかもしれないんですが、風呂敷のいいところはマイバッグと違って中身の大きさに布が合わせてくれますから、ダボダボした状態で持ち運ぶことがないとか、大きいマイバッグを持って買い物に行くと、このマイバッグに入るだけ買っちゃって、無駄使いしちゃうたりするので買った量に合わせて袋の大きさを決められるというのが風呂敷のいいところだと思います。

風呂敷だと持ち辛いという方もいらっしゃるかもしれないんですが、風呂敷にこういう持ち手を付けてしまうんですね。2本、真ん中のところにこういう紐がついています。これ、余り布をここに結びつけただけなんですけれども、ここに紐が付いていると中にものを置いて、普通によくある風呂敷包み、かぶせてかぶせて結ぶという感じで、普通の一番簡単な風呂敷包みをやって持ち手があると、これでバッグになっちゃうんです。こうやって持つのは持ち辛いという方は、ちょっとひと手間かけて、風呂敷に持ち手を付けてしまうと、とっても使い易い状態になると思います。是非、参考になさってください。

こういうボトルをどなたかのお家に手土産として持って行かれる方もいるかと思うんですが、ボトル用の紙袋ってあまりないんですよね。買うと高いし。家にある百貨店などの紙袋に入ると、大きさに合わないし。なかなか入れるものがなかったりします。風呂敷で包むと簡単ですよ。風呂敷の端っこに置きまして、くるくるくると巻いてしまいます。こういう状態にしました。上と下を結んでしまえば、これでりっぱな風呂敷で包まれたボトルなんです。布で包めば割れたときも安心ですし、持ち易いですし、おしゃれですし、プレゼントしたときも喜ばれると思います。ぜひ、参考になさってください。

風呂敷はこれからの季節マフラー代わりにもありますし、ひざ掛けにもなりますし、バッグの代わりにもありますし、1枚あると本当に便利ですよ。なるべくバッグの中にしのび込ませていきます。風呂敷もマイバッグと一緒につつい可愛いのがあったくさん買っちゃうんですよね。でも1枚あれば充分です。なるべく無駄使いしないよ

うに、無駄使いは環境汚染につながりますので、たくさんは買わないようにしています。そして、風呂敷も先ほどのマイバッグと同じように、なるべくコットン100%、綿100%のものをかうようにしています。ナイロンは石油でできてますからね。私の風呂敷、素材はなんでしょうね。ずっと使っているものですが、大丈夫綿100%でした。だけど、こっちは雑誌の付録でついてきたものですが、触り心地がどうも化繊ぽいんですよ。ついつい、こういう石油を使っているものも使ってしまうんです。

何をするにも無理をするのが一番いけないと思います。綿100%がいいからといって、それしか使わないのもなかなか難しいです。できる範囲でエコなことをやる。続けてやるのが一番大事かなと思います。

日常レベルでできるエコなことと言えば、台所でできることがいっぱいありますね。日本は世界一食材を無駄にしている国と言われてます。11兆100億円分の食料が廃棄されています。まだ食べられる食糧の3割は捨ててしまっています。私たちが日頃捨ててしまっている量は、世界で支援物資として貧しい国に送られている量よりも私たちが捨てている食べ物の量の方が多そうなんです。私この話を聞いて本当に怖くなりました。食べられない人がいるのに、何で私たち、捨ててしまっているんだろう。だから、食材はなるべく使い切るように心がけています。女性の方はご存知だと思いますが、大根にしても食べ切れるんですよ。全部捨てちゃうところがなくて、食べられるんです。葉っぱもごま油で炒めてお塩で味付けて御飯にかけたりすればすごくおいしくいただけますし、大根の皮も食べられますし、捨てちゃうのもったいないんですよ。だからなるべく使い切るようにしています。和食は使い切りレシピがたくさんあるんですよ。私は全然料理が得意じゃないので、たくさんご紹介することはできないんですが、使い切りレシピをいろいろ調べて実践させるのもエコなことなんじゃないかなと思います。

ガスとか、電気とか、無駄にしないようにエコクッキングすることも大事ですね。例えば大根を煮るときに、ちょっと切れ目を入れておくと、それだけ早く煮ることができる。早く煮ることができるということは、それだけガスや電気を使わないでお料理できることなので、本当に小さな工夫がエコです。こんなことやっても大して変わんないよ、と思うことも正直あるんですけども、その小さいことを続けて行くことが大事だなと思います。

無理はいけないので、すごくストイックにエコなことをやってみてごみの分別も20個くらいに分別しちゃったり、もうマイバッグも毎日コットン100を持ち歩いて、無駄使いしないでとやっていると疲れてしまいますので、できることからコツコツと継続していくことが大事だなというふうにも自分に言い聞かせてやるようにしています。

今日は非常に環境問題にお詳しい皆さんの前で、私のような若輩者がお話をさせていただいて大変恐縮なんですが、いつも考えていること、実践していることをご紹介しますことができました。

一人ひとりができることは少ないし、小さいことなんですけれども、みんなでやれば、それが地球を守る、環境を守ることに繋がると思いますので、これからもエコなことをみんなで頑張って続けて行きたいと思います。最後までお聞きいただきありがとうございます。



●大会宣言

この

佐賀市立神野小学校児童(6年生)

神野小学校では、平成16年度に佐賀市学校版ISOの認証を取得し、様々な環境保全活動に取り組んでいます。



神野小学校環境委員会による大会宣言

私たちは神野小学校環境委員会です。神野小学校は佐賀駅の近くにあり、全校生徒747人と、佐賀県内でも大きいほうの学校です。環境委員会では、リデュース、リユース、リサイクルなどの「もったいない運動」に取り組んでいます。今日は私たちの取り組みの中の思いを発表します。

<委員長 東島いずみ>

ものを大切に、落としものをしません。
 落ちているごみはきちんと拾ってゴミ箱に捨てます。
 まだ使える紙はリユースします。
 裏が白い紙はリユースし、最後まで大切に使います。
 環境のことを考え、ごみ拾いに取り組みます。
 燃えるごみや燃えないごみはきちんと分別します。
 ごみを分別してリサイクルし、資源を大切にします。
 使えるものは最後までちゃんと使ってごみを減らします。
 使えなくなったものはリサイクルします。
 ごみを減らして節約します。
 両面使った紙はリサイクルします。
 燃えるごみ、燃えないごみをちゃんと分別します。

田久保 諭
 品川 穂波
 東島いずみ
 千住 輝
 鳥海 陸斗
 藤井さつき
 田中 美帆
 木原 祐弥
 西山 響
 吉田 瑠華
 今村 真悟
 森永 丈司

3. さが環境展

日程.....11月3日(祝・水)～7日 9:00～17:00

会場.....嘉瀬川河川敷(佐賀市)

(2010佐賀国際バルーンフェスタ会場内 パブリックゾーン)

来場者数...50,771名(5日間合計)



佐賀県立太良高校 「エコキャップアート」展示



太良高校の生徒たちが約3万個のペットボトルの使用済みキャップを使い、制作した巨大アートを展示。

●オープニングセレモニー

プログラム

主催者挨拶

伊藤 哲夫(環境省廃棄物・リサイクル対策部長)
古賀 盛夫(佐賀市副市長)



伊藤 哲夫
(環境省廃棄物・
リサイクル対策部長)

アトラクション

佐賀県警察音楽隊

テープカット

伊藤 哲夫(環境省廃棄物・リサイクル対策部長)
古賀 盛夫(佐賀市副市長)
神田 修二(環境省九州地方環境事務所長)
古谷 宏(佐賀県くらし環境本部長)
武内 和彦(3R活動推進フォーラム会長)
島内 正彦(佐賀県商工会議所連合会専務理事)
石丸 博(社団法人佐賀県産業廃棄物協会会長)
東島美恵子(佐賀県消費者グループ協議会長)
石崎 方規(特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構事務局長)
橋本 辰夫(佐賀県地球温暖化防止活動推進センター長)
脇山 行人(佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議 事務局長)



古賀 盛夫
(佐賀市副市長)



◎会場内の様子

一般企業ゾーン



NPO法人・市民団体ゾーン



行政関係ゾーン

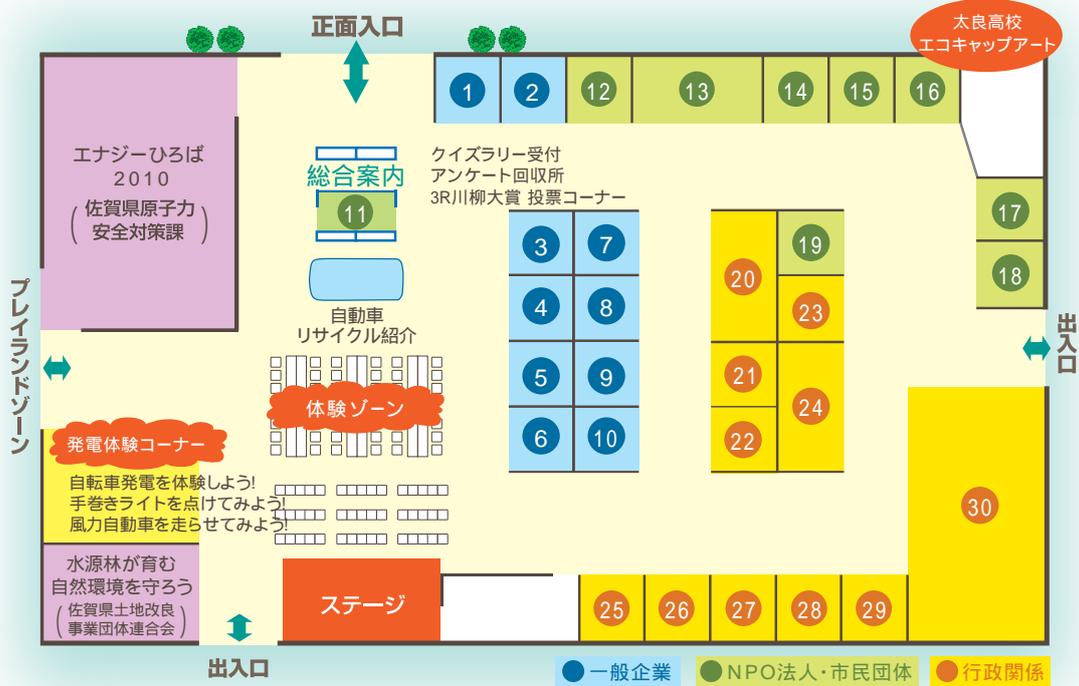


目指せエコ賢人クイズラリー

会場内を見て回り、クイズに全問正解するとエコバックをプレゼント。



●さが環境展レイアウト



出展ゾーン

3R推進活動に取り組む企業・団体による環境関連製品や活動のご紹介

一般企業

① 九州電力(株)佐賀支店	省エネ啓発パネルの展示、エコキュートの展示・紹介、ヒートポンプ式床断熱の紹介
② (株)トワード物流	エコドライブと安全運転の推進システム「ECO-SAM」の展示及びシステムの説明
③ (株)島田商会	自動車リサイクルの紹介やリサイクル製品の紹介
④ 日本建設技術(株)	水質の浄化、脱臭などの効果をもつ「ミラクルソル(廃ガラスリサイクル製品)」を用いた工法の紹介
⑤ (有)鳥栖環境開発総合センター	エネルギー回収から農地還元まで 食品・汚泥・廃食用油等、地域から出る廃棄物を資源としたリサイクル事業の紹介 / バイオマス複合利用活用事業の紹介
⑥ (株)シグマ	デモ器による説明、LED照明、断熱塗料、断熱UVコートなど、省エネルギーシステムの紹介
⑦ チクシ電気(株)	再利用されにくい素材等に有効な、少ないエネルギーで破砕できるチェーンを採用した破砕機の紹介
⑧ ヤマトカンキョウ(株)	食品工場から出る有機汚水の削減、上水施設の維持管理費削減、節水サービスの技術説明
⑨ (株)イワフチ	ペットボトル等を使ったエコマジックショー(土日のみ1日2回予定)と、パネル展示
⑩ 大塚製薬(株)佐賀出張所	容器包装3R推進環境大臣賞製品部門最優秀賞を受賞したポカリスエットのペットボトル「エコボトル」の展示紹介

NPO法人・市民団体

11	佐賀県地球温暖化防止活動推進センター	緑のカーテンフォトコンテスト作品展示 ミニ工作教室の実施
12	3R活動推進フォーラム・(財)廃棄物研究財団	3Rを中心とした循環型社会の構築に向けて、パネルや、3R関連資料を展示し、3Rについて学ぶ機会の提供を行う
13	NPO法人 伊万里はちがめプラン / 佐賀大学	はちがめ堆肥(生ごみ堆肥)安心安全な菜種油、 バイオディーゼル燃料の紹介 / 佐賀大学と連携したパネル展
14	NPO法人 さが環境推進センター	地球にやさしい暮らし方提案 / 裂き織で「ポットマット」作り・せっけん作り・おもちゃ病院(修理)・生ゴミ減らしなど、活用事例を紹介
15	チャリさがさいせい(チャリさ)	佐賀大学で廃棄されている自転車を再生利用する活動の紹介
16	江北町こども体験教室	日本・韓国・中国児童による環境保全啓発絵画展 (各国30枚程度)
17	NPO法人 環境科学研究所	「焼却から炭化へ!」廃棄物から資源へ!! 「リサイクルの革命児、佐賀から旅立ち!!」
18	NPO法人 循環型環境・農業の会	生ごみを処理容器及び生ごみボカシ・活性液を展示
19	(財)佐賀県環境クリーン財団	クリーンパークさが案内パネル展示、 2010年度「環境・ごみ問題」絵画コンテスト金賞作品展示

行政関係

20	佐賀県地球温暖化対策課	大気循環や温暖化など生きた地球の姿を体感する、デジタル地球儀(直径128cm)を県内初公開(協力:(株)ゼネシス)
21	佐賀県下水道課・ 佐賀県浄化槽普及促進協議会	浄化槽の仕組みや水環境を守るため家庭でできること等について解説したパネル、及び浄化槽のミニチュアモデルの展示
22	環境省九州地方環境事務所	3R推進及び各種リサイクル制度等環境関係啓発用パネルの展示、及びパンフレット、体験グッズの紹介
23	環境省	循環型社会構築に向けた取り組みについての紹介
24	佐賀県観光課	佐賀県内の観光地の紹介(観光パンフレットなどの配布)
25	佐賀県工業技術センター	佐賀県工業技術センターの業務紹介と環境・福祉・エネルギーに関連した研究成果のパネル展示
26	佐賀県窯業技術センター	「有田焼の低温焼成技術」、「豚尿からのリン資源の回収技術」、「光触媒による環境浄化技術」など窯業技術センターが取り組む、環境浄化や省エネルギーの研究紹介
27	佐賀県環境センター	バルーンが飛ぶ佐賀の青い大空、バルーンが映る嘉瀬川のきれいな水を守る佐賀県環境センターの仕事を紹介
28	佐賀県認定リサイクル製品展示	「佐賀県認定リサイクル製品」として認定されている、県内の事業所等で製造加工されるリサイクル製品の紹介
29	3R促進ポスターコンクール 入賞作品展示	循環型社会の構築を促進することをテーマに、環境省と3R活動推進フォーラムが全国の小中学生を対象に募集したポスターの入賞作品の展示
30	佐賀市	紙ごみや生ごみ等の減量方法や、佐賀市が取り組む3R推進事業・学校版環境ISO等についての展示紹介

さが環境展の出展状況がわかる写真が巻末のDVDに保存されています。 

ステージイベント

イベントスケジュール

	11/3 (祝・水)	11/4 (木)	11/5 (金)	11/6 (土)	11/7 (日)
9:00					
10:00					ウルトラセブン と学ぼう！
10:30	ゆるキャラ PR ステージ				
11:00					
11:30					
12:00				エコロジックシアター リサイクル音楽会& 工作教室	ミニエコ 検定大会
12:30					
13:00	Live! Eco Life!	生ゴミの堆肥化実験			生ゴミ減量化の 必要性及び ボカシ作りの実演
13:30			安全運転システム MCO-SAWの 紹介		
14:00					
14:30				白井貴子 3Rトーク & ライブ	ウルトラセブン と学ぼう！
15:00					
15:30	ミニエコ 検定大会			白井貴子 ミニトーク ショー	おもちゃのリユース かえっこ広場
16:00	サガン鳥栖 ミニトーク ショー				
16:30				エコロジックシアター リサイクル音楽会& 工作教室	
17:00					

11/
3
祝・水



Live! Eco Life!



ミニエコ検定大会



サガン鳥栖ミニトークショー

11/
4
木



生ゴミの堆肥化実験

11/
5
金

安全運転システムECO-SAMの紹介



分解型生ゴミ処理機「くたくん」の紹介

11/
6
土エコロジックシアター
リサイクル音楽会&工作教室

白井貴子ミニトークショー

11/
7
日

ウルトラセブンと学ぼう!



ミニエコ検定大会



生ゴミ減量化の必要性及びポカシ作りの実演



おもちゃのリユース かえっこ広場

●体験コーナー



自転車発電体験



手巻きライトを点けてみよう!



風力自動車を走らせてみよう!

エコ賢人になろう! 環境寺子屋塾(ワークショップ)



11/3 祝・水

11:00 ~ 14:00 ~

間伐材を使った工作教室

11/4 木

11:00 ~ 14:00 ~

牛乳パックから
ハガキを作ろう

11/5 金

11:00 ~ 14:00 ~

ダンボールコンポスト講座

11/6 土・7 日

10:30 ~ 14:00 ~

(7日は15:00 ~)

エコバックスケッチ大会



●“3R川柳大賞”投票コーナー

賞名	作品
3R川柳大賞	「忘れ物〜」 娘が手渡す マイバッグ
3R川柳優秀作品賞	ママごとの ママも言ってる モッタイナイ
	再利用 渡る世間に ゴミはなし
3R川柳大賞特別賞	見つけたよ ぼくのノートに エコマーク
	古畳 裏を返して おもてなし
3R川柳大賞入選	3R 未来をつくる 愛言葉
	何度でも 使っていくほど 味が出る
	3R もったいないが 基本です
	着て脱いで 1 を節約 冷暖房
	分別の 成否は人の 分別に



4. 関連イベント

●環境省中央環境審議会循環型社会計画部会地域ブロックヒアリング

日程.....11月3日 13:00～15:00

会場.....アバンセ（佐賀市天神三丁目2-11）

主催.....環境省

来場者数...約140名

循環型社会構築に向けた第2次循環型社会形成基本計画に係る進捗状況の点検のため、行政、事業者、NPOより取組事例が紹介され、中央環境審議会循環型社会計画部会委員及び一般出席者との質疑応答が行われた。



[ヒアリングに出席した中央環境審議会委員]



[行政、事業者、NPOからの講演者]

議事等

佐賀県 「佐賀県における3Rの取組について」

説明者：佐賀県くらし環境本部副本部長 坂本 弘幸氏

3Rの取組、廃棄物の排出の現状と目標、3Rの具体的な取組の事例（佐賀県認定リサイクル製品制度）等について、説明が行われた。

佐賀市 「佐賀市のごみの現状と施策」

説明者：佐賀市環境下水道部循環型社会推進課主任 古賀 慎司氏

一般廃棄物処理基本計画の概要、環境都市宣言とその取組、燃えるごみの減量の目標、生ごみ堆肥化促進事業、今後の課題（堆肥化促進事業の継続性、普遍性）等について、説明が行われた。

(有)鳥栖環境開発総合センター 「バイオマス複合利活用事業で資源循環を推進」

説明者：(有)鳥栖環境開発総合センター総務部 技術主任 伊地知武郎氏

<事業者概要> 同社は、一般廃棄物、産業廃棄物の収集運搬・処理、浄化槽の保守点検業、濃度計量証明事業などを行っている傍ら、食品残渣や下水汚泥等を用いてバイオマス燃料化や有機肥料開発を行うなど先進的な取組を進めている。

ヒアリングでは、一般廃棄物、産業廃棄物から出る廃棄物のリサイクル（生ごみ、汚水、廃食油のリサイクル）直面している課題（各法の特例措置、処理料金）等について、紹介・説明が行われた。

NPO法人伊万里はちがめプラン 「『生ごみを宝に！』資源循環型社会をめざして」

説明者：NPO法人伊万里はちがめプラン 理事長 福田 俊明氏

<団体概要> 同法人は、生ごみ堆肥化実行委員会として平成4年に活動を開始し、食品残渣を循環資源として活用する取組の草分け的存在であり、地域の循環型社会構築に貢献する様々な先進的な取組を進めている。

ヒアリングでは、生ごみ回収と良質な堆肥の生産、菜の花エコプロジェクト活動、はちがめ農産物直売所「風道」、今後の活動（環境教育出前講座、食資源循環の推進、他地域への水平展開）等について、紹介・説明が行われた。

詳細については、環境省のホームページでご覧いただけます。 <http://www.env.go.jp/council/>

イベント

●3R推進全国大会イベント 3R記念講演会

4

関連イベント

日程.....10月22日
会場.....佐嘉神社記念館
 (佐賀市松原2-10-43)
主催.....佐賀県産業廃棄物協会、
 佐賀県解体・リサイクル協議会
来場者数...約100名



産業廃棄物処理業は循環型社会の一翼を担う重要な産業であり、今後、行政や排出事業者、一般の方々との連携を如何に構築していくかが課題になってくるとの認識で講演会を実施した。また、業界で取り組んでいる3R事業の紹介パネルを展示した。

講演 演題 「日本を元気にする環境対策」
 講師 環境庁地球環境部初代部長・NPO法人「環境文明21」主宰 加藤三郎
講演 演題 「循環型社会における情報公開のあり方」
 講師 弁護士 佐藤 泉
 関根信一郎と仲間たちのリサイクルコンサート

●佐賀市環境問題講演会

日程.....10月29日
会場.....佐賀市文化会館
 (佐賀市日の出1-21-10)
主催.....佐賀市
来場者数...約600名



環境問題をテーマにした講演会を市文化会館で開催し、約600名の参加があった。

中原教授は講演で、「温暖化を食い止めるために、消費や生産など現在の行動を転換していく必要がある」と強調。パネル討議では、家庭や地域、職場でのエコの実践を確認した。

講演 演題 「残された時間はない！」
 講師 東京都市大学大学院教授 中原秀樹
パネルディスカッション



【パネリスト】 佛淵 孝夫(佐賀大学長) 平原ムツコ(環境保健推進協議会 副会長)
 橋本 辰夫(NPO法人温暖化防止ネット 理事・事務局長) 秀島 敏行(佐賀市長)
【コーディネーター】 富吉賢太郎(佐賀新聞社 論説委員長)
【アドバイザー】 中原 秀樹(東京都市大学大学院教授)

●さが環境フェスティバル in 森林公園

日程.....平成22年10月29日 ~ 10月31日

会場.....佐賀県立森林公園

(佐賀市久保田町大字徳万1897)

主催.....佐賀県立森林公園

佐賀県地球温暖化防止活動推進センター

第5回3R推進全国大会実行委員会

来場者数...約9,000名

ゴミ減量化やリサイクルなど3Rの推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会形成に向けた取り組みを紹介した。



🌿 佐賀・環境ビジネスフェア

出展企業

- ・ヤマトカンキョウ(株)：汚泥削除等
- ・(株)トワード物流：エコドライブシステム
- ・(株)シグマ：省エネ機器展示
- ・チクシ電気(株)：新型破砕機
- ・NPO法人環境科学研究所：小型炭化装置
- ・アクトビーリサイクリング(株)：家電リサイクル
- ・日本空調サービス(株)九州支店：水上式太陽光発電システム

🌿 エコフリーマーケット

29日 / 出店40店、30日 / 出店85店、31日 / 出店80店

🌿 グリーンマーケット(植木、園芸用品、花苗、庭関連商品等 20店舗出店)

🌿 九電工 エコライフフェア

太陽光発電展示及び説明会

省エネ機器及びシステム展示説明会

農家直送野菜販売

🌿 エフエム佐賀公開生放送

🌿 親子で体験! 環境工作教室

新聞紙でエコバッグづくり、牛乳パックでハガキづくり

🌿 プラグイン・ハイブリッド、電気自動車、電気バイク体験試乗会

🌿 バルーン係留飛行搭乗会

🌿 森林公園周辺クリーン大作戦

企業、一般参加者90名

5 資料

●チラシ DVD

5

資

料



概要版チラシ
(A4、片面印刷)

詳細版チラシ(A4、両面印刷)



(表)



(裏)

表面はB2版ポスターとしても使用

●式典プログラム(A3二つ折り、両面印刷) DVD



(表)



(裏)

●さが環境展リーフレット(B4三つ折り、両面印刷) DVD

第5回 3R推進全国大会 さが環境展

ステージイベント

11/3(水)
Live! Eco Life!
12:30~

11/6(土)
白井貴子 3Rトーク&ライブ
14:00~15:00
白井貴子 ミニトークショー
15:00~

11/7(日) **観覧無料**
ウルトラセブンと学ぼう! ~環境・電生編~
1:10:00~3:14:00~
おもちゃのリユースかえっこ広場
15:00~

第5回 3R推進全国大会 さが環境展 イベントスケジュール

時間	11/3(水)	11/4(木)	11/5(金)	11/6(土)	11/7(日)
9:00~10:00					
10:00~11:00					
11:00~12:00					
12:00~13:00					
13:00~14:00					
14:00~15:00					
15:00~16:00					
16:00~17:00					

第5回 3R推進全国大会 さが環境展

3Rでいざ、佐賀やエコ維新!

11/3(水)~7(日) 9:00~17:00

観覧無料

第5回 3R推進全国大会 実行委員会

〒810-0801 佐賀県佐賀市東区大町1-1-1 佐賀県立佐賀高等学校 大会会場

TEL: 0952-25-7774 FAX: 0952-25-7774

第5回 3R推進全国大会 さが環境展

「3R川柳大会」投票コーナー

会場アンケートプレゼント

A 雄野温泉ヘア宿泊券
B 佐賀牛 (1万円相当)
C さがびより (数量5kg)

ハルーンフェスタ会場

ステージイベント

11/3(水) 12:30~13:00 ゆるキャラパレード
11/4(木) 10:00~14:00 生ゴミの増進化実験
11/5(金) 10:00~14:00 エコドライブと安全運転システム
11/7(日) 10:00~12:00 生ゴミ減量の必要性

会場案内図

正出入口

1 九州電力(株) 佐賀支店
2 協和トクトウ物流
3 株式会社佐賀県
4 日本建設技術院
5 佐賀県環境教育センター
6 佐賀シニア
7 ナカシマ電気(株)
8 ママトカンキョウ(株)
9 佐賀アピア
10 大塚製薬(株) 佐賀営業所

出展ゾーン

九州電力(株) 佐賀支店
協和トクトウ物流
株式会社佐賀県
日本建設技術院
佐賀県環境教育センター
佐賀シニア
ナカシマ電気(株)
ママトカンキョウ(株)
佐賀アピア
大塚製薬(株) 佐賀営業所

● ブログ DVD

<http://3rsaga.blog75.fc2.com/>



● ホームページ DVD

<http://www.3r-saga.jp/>



● ツイッター DVD

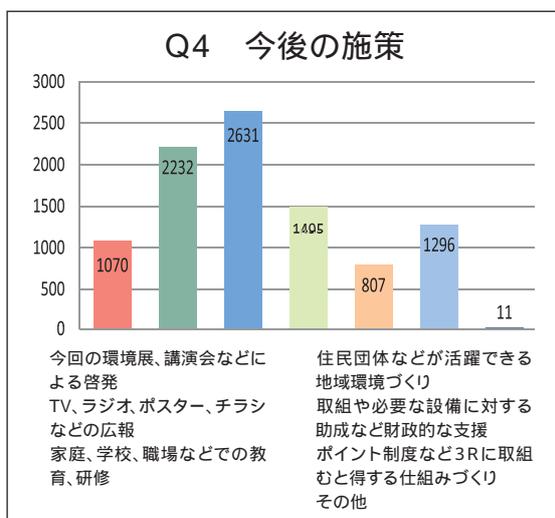
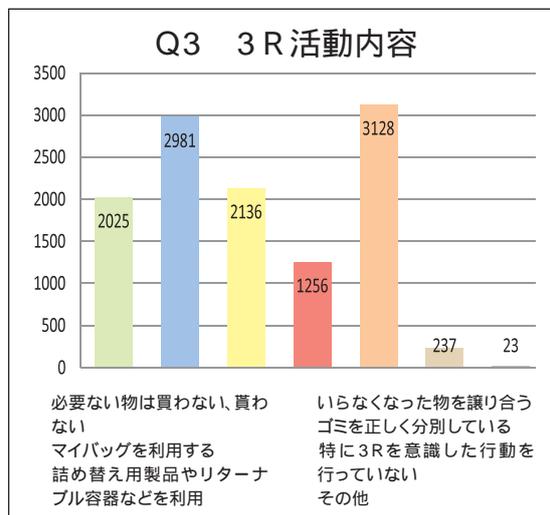
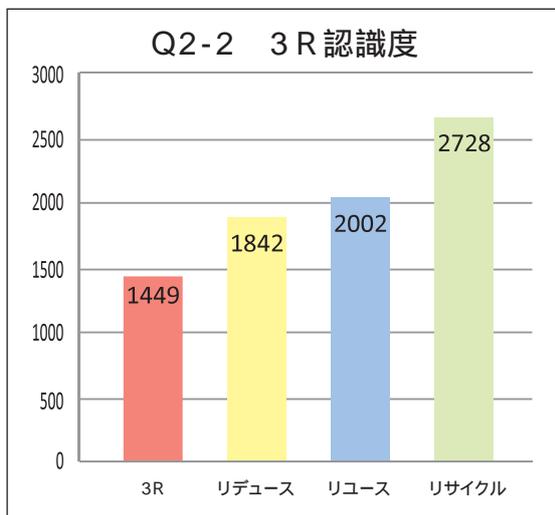
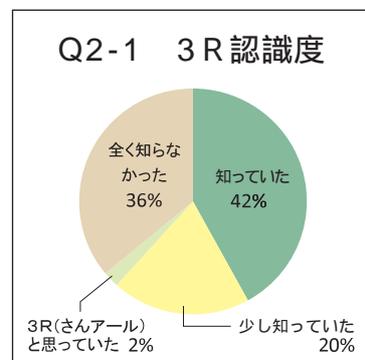
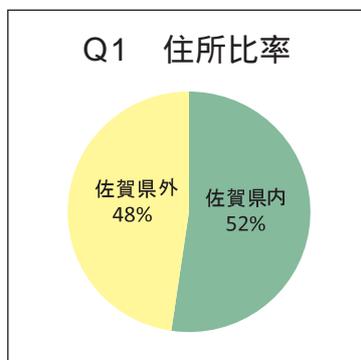
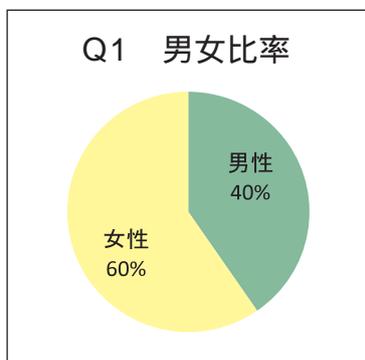
<http://twitter.com/3rsaga>



TOPページ

『3Rで、いざ、佐賀エコ維新!』アンケート結果

大会式典、さが環境展の来場者の方にご協力いただき、3Rに関するアンケートを実施しました。



Q3 「その他」で多かった3Rを意識した日常的な行動

「生ごみの堆肥化」、「裏紙の使用」、「ごみをなるべく出さないようにしている」

Q4 「その他」で多かった3Rを意識したライフスタイルに必要な施策等

「レジ袋の有料化」、「幼児期からの環境教育」、「3Rをカッコいいイメージにする」

アンケート配布枚数 5,000枚
アンケート回収枚数 4,395枚(回収率 87.9%)

アンケートの様式やデータは、巻末のDVDにあります。 

●第5回 3R推進全国大会実行委員会設置要綱

(名称)

第1条 本会は、第5回3R推進全国大会実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、資源循環型社会の形成に向けて、より広範な3R活動推進を図ることを目的に開催する第5回3R推進全国大会（式典）と、「第5回3R推進全国大会佐賀県環境展」をはじめとする他のイベント（以下「併催イベント」という。）の一体的な運営及びその調整等を図るために組織する。

(業務)

第3条 実行委員会は、次の業務を所掌する。
 第5回3R推進全国大会（式典）の開催に関すること
 併催イベントの開催に関すること
 前2号の一体的な運営・調整に関すること
 実行委員会の予算・決算に関すること
 その他、関係機関・団体等との連絡調整に関すること

(組織)

第4条 実行委員会の委員は、別表に掲げる者をもって構成する。

(役員)

第5条 実行委員会に、次の役員を置く。
 委員長 1名
 副委員長 1名
 監事 1名
 2 委員長は、佐賀県くらし環境本部長をもって充てる。
 3 副委員長は、佐賀市環境下水道部長をもって充てる。
 4 監事は、佐賀県くらし環境本部企画・経営グループ長をもって充てる。

(役員の実務)

第6条 委員長は、実行委員会を代表し、会務を総括する。
 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
 3 監事は、実行委員会の会計事務を監査する。

(会議)

第7条 実行委員会の会議は、委員長が招集する。
 2 会議の議長は、委員長をもって充てる。

(幹事会)

第8条 会務の円滑な運営を図るため、実行委員会に幹事会を置く。
 2 幹事会については、委員長が別に定める。

(事務局)

第9条 実行委員会の事務を処理するため、佐賀県くらし環境本部循環型社会推進課内に事務局を置く。

(経費)

第10条 実行委員会の経費は、負担金、協賛金、その他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第11条 実行委員会の予算は、実行委員会の承認を経てこれを定め、決算は、監事の監査を経て実行委員会の承認を得るものとする。

(解散)

第12条 実行委員会は、大会が終了し、決算の承認を得られたときに解散する。

(その他)

第13条 この要綱に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

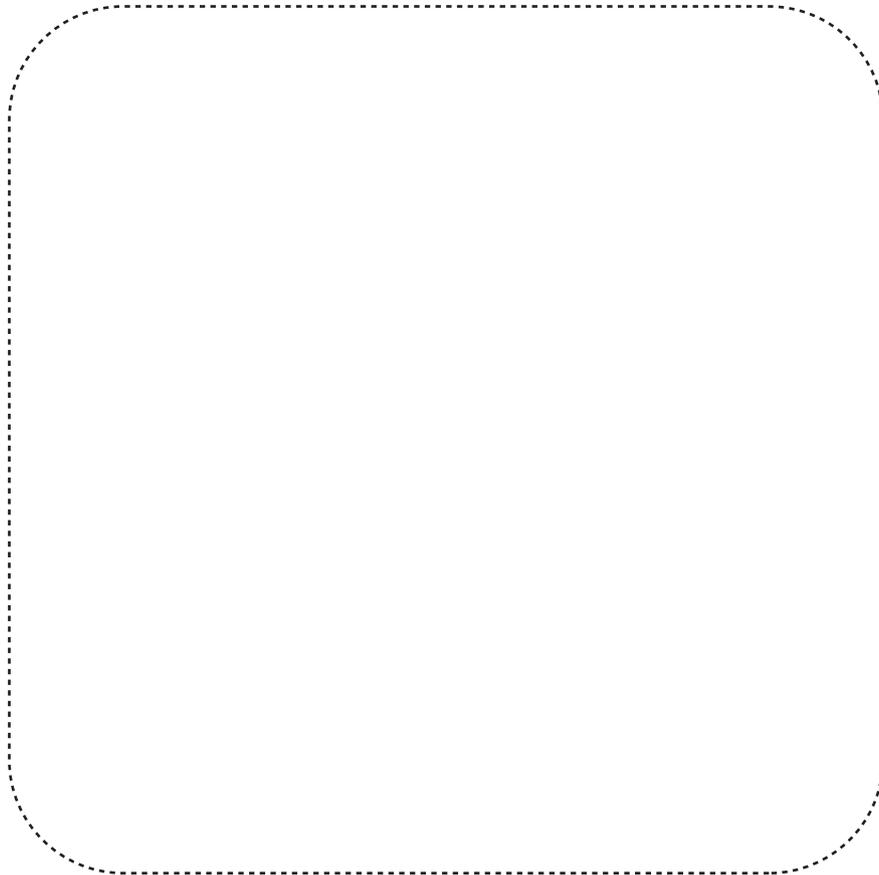
附 則

この要綱は、平成22年4月30日から施行する。

(別表)

第5回3R推進全国大会実行委員会 委員名簿
 委員長 佐賀県くらし環境本部長 古谷 宏
 副委員長 佐賀市環境下水道部長 平尾 茂
 委員 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課長 金丸 康夫
平成22年8月10日付 人事異動のため坂本勉に交替
 " 環境省九州地方環境事務所長 神田 修二
 " 3R活動推進フォーラム専任理事 八木 美雄
 " 佐賀県商工会議所連合会専務理事 島内 正彦
 " 社団法人佐賀県産業廃棄物協会会長 石丸 博
 " 佐賀県消費者グループ協議会長 東島美恵子
 " 特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構代表理事 川副 知子
 " 佐賀県地球温暖化防止活動推進センター長 橋本 辰夫
 " 佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議事務局長 脇山 行人
 監 事 佐賀県くらし環境本部企画・経営グループ長 伊藤 正

データ集 DVD



報告書の中にある資料等のデータを保存しておりますので、
パソコンでご覧ください。

主な内容

式典オープニング映像

特別講演資料

印刷物PDF

記録写真



マスコットキャラクター
ピコピコ

3R スリーアール
とは?

Reduce リデュース ごみをできるだけ出さない

Reuse リユース 使えるものは繰り返し使う

Recycle リサイクル 再び資源として利用する



環境にやさしい大豆油インキを使用。